授業科目コード	41－1	授業科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員名	清水 尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学や学生生活全般について、基本的な認識を育成する。

授業の目的・到達目標

卒業後の自分を意識して、生活マネジメントコースにおける専門教育を学ぶための基礎的な学習習慣を身につけ、大学 4 年間の目標を定める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	自己啓発ゼミナール	生活と健康について考える	
3	自己啓発ゼミナール	関心事と適性を考える	入学前教育のノート
4	自己啓発ゼミナール	仕事と適性を考える	
5	専門教育への導入	学術情報センターの活用方法の説明	
6	専門教育への導入	学術情報センターの案内	
7	専門教育への導入	学術情報センターで情報検索	
8	専門教育への導入	原稿用紙の使い方の説明と練習	学外研修のプリント
9	専門教育への導入	学外研修の事前講義	
10	専門教育への導入	学外研修（住まいのミュージアム）	
11	専門教育への導入	学外研修の報告書作成	
12	専門教育への導入	課題レポートの書き方の説明	
13	自己啓発ゼミナール	学術情報センターで情報の検索・レポート作成	
14	自己啓発ゼミナール	学術情報センターで情報の検索・レポート作成	
15	自己啓発ゼミナール	学術情報センターで情報の検索・レポート作成	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　授業中に課す学外研修の報告書と課題レポートを評価する。 □無し	50 %
試　験		%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

必要に応じて資料をプリントで配布する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	41－2	授業科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員名	向出 佳司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学や学生生活全般について、基本的な認識を育成する。

授業の目的・到達目標

前期に引続き生活マネジメント専攻における勉学に必要な学習習慣を身につけるとともに、専門教育の基礎となる学力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	後期オリエンテーション	学習計画と履修登録	
2	学生生活への支援	先輩からのアドバイス	
3	学生生活への支援	家庭科教諭からのアドバイス	
4	専門教育への導入	生活と心理	
5	専門教育への導入	生活とキャリア	
6	専門教育への導入	生活とデザイン	
7	専門教育への導入	生活と住まい	
8	専門教育への導入	生活と健康	
9	専門教育への導入	生活と社会	
10	専門教育への導入	学外研修（サントリーミュージアム　天保山）	
11	専門教育への導入	学外研修の報告書作成	
12	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
13	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
14	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
15	まとめ	レポート作成・提出	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　授業中に作成する。 □無し	80 %
試　験		%
その他（出席状況等）	出席状況	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕必要に応じて資料を配布する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2008

授業科目コード	41－3	授業科目名	生活学概論	担当教員名	岸本 幸臣

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間生活とは、どのような現象なのかを科学的に考察し、私たち人間は何故豊かな生活を求めて前進しようとするのか、その発展のメカニズムと生活発達の特性を概説する。更に、生活学を構成する領域科学の考え方やそれを活かした専門職のあり方を考える。

授業の目的・到達目標

人間生活に特有な、生活の質的上昇志向と世代を継承できる安定的な生活持続への潜在的欲求の想いが、今日の持続可能な社会発展の基本原理となっていることを理解する。また、生活学における個別領域科学の使命と隣接科学のそれとの本質的違いを認識できるようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義の概要	生活学を学ぶ目的と生活現象の捉え方	講義時に補足資料配付
2	生活学の歴史(世界)	古代ギリシャ家政論から現代アメリカ家政学へ	同　上
3	生活学の歴史(日本)	江戸期の家道訓から家政学そして生活科学へ	同　上
4	生活と社会の進歩	社会発展に果たす人間生活の上昇志向の特性	同　上
5	社会発展とその功罪	文明の必然性と発展に内在する基本的矛盾	同　上
6	問われる価値観転換	人間生活の新パラダイムとしての「家政原理」	同　上
7	生活学の学問的構成	生活事象を考察するための領域科学の考え方	同　上
8	生活主体の特性	家庭生活の当事者としての家族とその機能	同　上
9	生命維持の手段	人間の健康と生命維持のための食環境の条件	同　上
10	生活の一義的保護	生物的弱者としての人間の衣環境の条件	同　上
11	生活の空間的条件	家庭生活の場としての住環境(住まいと居住地)	同　上
12	生活の支援システム	社会化する生活と支援方法（生活福祉と情報）	同　上
13	生活の管理と経営	主体と媒体の対応法(生活目標と生活スタイル)	同　上
14	生活学と専門職	生活学の社会的貢献の必要性とその活動分野	同　上
15	講義内容のまとめ	生活学の総括整理と定着度確認	同　上
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

日々の家庭生活を何気なく送るのではなく、「人間存在の基本である生活現象」として捉え、そこにもっと深い学問的興味と観察力を向けて、家庭生活の意義や特性そして大切さを考える習慣を身につけて下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜ミニレポートを書かせる。 □無し	20　%
試　験	期末テストを実施する。	70　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講態度は、評価の対象とする。	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕「家政学のじかん」（関西家政学原論研究会編、2011.6）

〔参考書・その他〕「私たちの生活科学」（中根芳一　編著、理工学社、2003.4）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2012

授業科目コード	42－1	授業科目名	ライフマネジメント論	担当教員名	小谷　良子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門教育科目 生活の運営	必修科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ・概要

ライフマネジメント（生活経営）の目標は、個人と家族、家族と社会のそれぞれの必要性の間にみられる矛盾点の克服・調整を可能にし、未来につながる生活力を醸成することである。個人・家庭・地域・社会の生活領域別に事例を適宜紹介しながら、さまざまな生活の事象を全体との関連のなかで捉える。

授業の目的・到達目標

・生活(ライフ)を生命、暮らし、人生という 3 つの側面から論理的、経験的に理解でき、説明できる。
・日常の個人生活・家庭生活・地域生活・社会生活にみられるさまざまな課題を指摘できる。
・生活課題の解決に向けての主体的な態度をや実践力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ﾗｲﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論の概容	授業概要と文献紹介、授業の進め方を説明する	プリント資料配布
2	生活環境と主体形成	生活者を取り巻く環境と生活者の主体形成	プリント資料配布
3	生活価値観とﾗｲﾌｽﾀｲﾙ	生活価値、生活欲求と生活資源、生活目標など	プリント資料配布
4	生活の社会化と QOL	家庭生活と社会生活の均衡、生活の質への評価	プリント資料配布
5	消費生活と生活経営	生産世界と生活世界からみる消費社会の諸課題	プリント資料配布
6	家庭・家族の機能	家庭の機能・家庭像、家族関係・家族の絆など	プリント資料配布
7	家庭経済と家計管理	家庭経済のしくみ、家計管理のノウハウなど	プリント資料配布
8	生活設計と生活時間	家族員のライフステージと生活時間の配分	プリント資料配布
9	生活空間と親子関係	住空間における生活環境と親子関係の課題	プリント資料配布
10	地域生活・ガバナンス	地域の課題と地域生活者としての住民参加	プリント資料配布
11	地域活動と家族	地域活動と主婦・高齢者・子どもの生活	プリント資料配布
12	地域連携と生活環境	地域・住民・学校の連携と子どもの生育環境	プリント資料配布
13	老若男女共同参画	少子高齢社会における福祉環境の展望	プリント資料配布
14	消費者の権利と責任	省消費的・環境醸成的な消費社会の展望など	プリント資料配布
15	ﾗｲﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論の総括	全体の理解度の確認と授業総括	プリント資料配布
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

・出席すべき授業数の 2/3 以上出席した者に対して、成績を評価する。
・下記に挙げた参考書に基づいて適宜授業を進めるが、講義資料は必要に応じてプリントを配付する。
・この分野に興味・関心がある人は、前もって参考書の次回該当箇所を読んでおくことを推奨する。
・自らの生活に関連づけて授業内容を理解することに努め、自主的に学ぶ姿勢を重視する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　各回の授業終了時に課す授業内容に関するミニレポートを提出。 □無し	20　%
試　　験	授業目標に示した観点に基づき評価する。 配布資料・その他のすべてについて、持ち込み不可	60　%
その他（出席状況等）	出席状況（10%）、及び、私語を慎んで主体的に授業に参加する、積極的に意見を発表するなどの授業への参加姿勢（10%）を評価する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　使用しない
〔参考書・その他〕
■小谷良子『主体形成と生活経営』ナカニシヤ出版(2007)。その他の参考書リストは初回授業時に配布。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号
　　号館　　階　　内線

電子メールのアドレス
[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	42−2	授業科目名	ライフマネジメント実習	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	2	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

家庭生活は人間が生きる上で大切な基盤である。この家庭生活の意義とそれを豊かにするための生活経営の視点について実習を通して解説する。家庭生活を総合的に捉え主体的に営む力、生活を「つくる」力を育成するために、生活実習室の施設を活用した実践的・体験的な学習（実習等）を行う。現代社会の課題（環境共生等のテーマ）を盛り込んだ学習内容になっている。

授業の目的・到達目標

本授業は、個別に履修している家政学専門領域の知識や技術を関連づけて、実生活に応用できる力の習得を目的としている。また、家庭生活を総合的に捉えマネジメントする視点のほか、人間生活の発展に寄与する暮らし方や生活価値を探求し、理解を深めることも目的としている。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方／家庭生活・生活経営とは	講義資料
2	家庭生活を考える	家庭生活について様々なテーマで議論する	講義資料
3	食生活を考える	食生活チェック／献立作成の知識／献立作成	講義資料
4	昼食実習①	食材の購入と調理実習（和食）	
5	昼食実習②	食材の購入と調理実習（洋食）	
6	昼食実習のまとめ	実習記録／食生活のマネジメント視点と総合評価	講義資料
7	消費生活を考える	生活費の管理シミュレーション／環境家計簿	講義資料
8	環境と衣生活（実習）	環境に配慮したエコグッズの製作	講義資料
9	人生設計と住生活	住宅選択・住まい方のシミュレーション	講義資料
10	乳幼児の生活と保育	乳幼児の生活の理解／保育体験（調乳と沐浴）	講義資料
11	家庭生活の経営	時間・労働・経済等管理と生活価値／模擬家族会議	講義資料
12	豊かな暮らしの企画	季節・地域性を生かした文化的な暮らし／会食企画	講義資料
13	豊かな暮らしの準備	会食の準備（テーマ設定）	講義資料
14	豊かな暮らしの実際	会食の実際	
15	豊かな生活とは	全体の理解度の確認と授業総括（提出物等）	講義資料
	(試験)	期末テストの実施	

履修上の注意・関連科目等

グループワークを主体とした実習のため、出席状況・受講姿勢は重要である（欠席・遅刻の多い学生の受講は不可となる）。また、自分の生活の振り返り等の調べ学習も含まれるため、普段から家庭生活事象に興味を持ち、情報収集に心がけるなどして関心を高めておくこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　内容等については授業で説明する（調べ学習・実習記録等） □無し	40 %
試　験	期末テストを実施する。	20 %
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕・「生活学 Navi 資料＋成分表 2013」（実教出版、2013）

〔参考書・その他〕・授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	42－3	授業科目名	ライフコース論	担当教員名	岡本 朝也

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代の社会では、「家族」という概念が大きくゆらぎ、変動しつつある。社会の仕組みや人生のありかたの変化、男女や親子の関係の変化を、ライフコースという概念を使って理解することをめざす。

授業の目的・到達目標

ライフコースの概念を理解し、人々の生活の実態や変化を分析的に理解できるようになることをめざす。具体的には、結婚や就職、ペアレンティングなどのライフイベントの実態と変化を記述できるようになることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の進め方、ポイント、評価	
2	現代のライフイベント①	親からの自立①	
3	現代のライフイベント②	親からの自立②	
4	ライフコースとは①	ライフイベントと役割移行	
5	現代のライフイベント③	結婚①	
6	現代のライフイベント④	結婚②	
7	ライフコースとは②	ライフイベントと役割移行	
8	現代のライフイベント⑤	就職①	
9	現代のライフイベント⑥	就職②	
10	ライフコースの要素①	時間と年齢	
11	ライフコースの要素②	世代とコーホート	
12	現代のライフイベント⑦	親になること	
13	ライフコースの研究①	ライフコース研究の歴史	
14	ライフコースの研究②	ライフコース研究の方法	
15	まとめ	ライフコース研究からみえること	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　学期末に 800 字程度のレポートを課する □無し	50 %
試　験		%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

嶋崎尚子『ライフコースの社会学』学文社（2008 年、1300 円）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	42－4	授業科目名	保育学	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

少子化、核家族化、情報化など子どもを取り巻く環境は大きく変わってきて、人々の価値観や生活様式も多様化してきている。

このような環境の中でどのように子どもの育ちを支えるのかについて様々な角度から考察する。

授業の目的・到達目標

保育の意義や理念、これまでどのような子育てが行われてきたのか、今後の社会の課題について学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	保育の意義と理念	保育の意義	テキスト１章
2	生涯学習社会	子ども期の課題(1)　学習の４本柱	〃２章
3		子ども期の課題(2)　生きる力	〃
4	保育思潮の変遷	(1)　ルネッサンス期の教育思想	〃３章
5		(2)　コメニウスの教育思想	〃
6		(3)　イギリス・フランス・ドイツの教育思想	〃
7		(4)　我が国近代前後の教育思想	〃４章
8		(5)　大正・昭和の教育思想	〃
9		(6)　現代の教育・保育の現状と課題	〃
10	保育内容の構成	保育内容の構成	〃５章
11	教育課程と教育評価	教育課程と教育評価	〃６章
12	乳幼児期の育ち	乳幼児期の育ちと教育・保育の展開	〃７章
13	保育者の役割	子どもをとりまく環境と教師・保育者の役割	〃８章
14	教育・保育の課題	教育・保育の課題①	〃９章
15		教育・保育の課題②	〃９章
	(試験)	行う	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。**ノートを毎回提出する。**

教科書を購入しないものには、単位は与えられない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30　%
試　験	試験期間に試験を実施する。	40　%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**（1 回欠席すると 5 点減点する）	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

生田貞子・石川昭義・水田聖一編著『保育実践を支える保育の原理』福村出版

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	42－5	授業科目名	家族関係学	担当教員名	岡本　朝也

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	2	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

今日、家族をめぐる状況は急速に変化しつつあり、家族の内部もまた大きく変わりつつある。家族にはどのような問題点が潜み、これからどうなっていくのだろうか。家族の内部に存在するいくつもの関係に焦点をあてて、家族の将来像を探ってゆきたい。

授業の目的・到達目標

家族の中にどのような関係があるかを理解し、現代の家族の状態、今後の家族のあり方についての洞察を深められるようになること。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス		
2	現代家族の特徴①	少子化と未婚化	
3	現代家族の特徴②	家事と育児	
4	現代家族の特徴③	世帯の構成と類型	
5	現代家族の特徴④	現代家族の特徴まとめ	
6	家族の理論①	核家族普遍説と自我論	
7	家族の理論②	核家族の理論	
8	家族の理論③	三世代家族の理論	
9	家族の理論まとめ	家族の理論まとめ	
10	近代家族①	前近代の家族	
11	近代家族②	近代家族の成立	
12	近代家族③	近代家族の普及	
13	近代家族④	近代家族の限界	
14	家族の将来①	ステップファミリー、単親家族	
15	家族の将来②	個人化と家族	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　800 字程度のレポートを学期末に課する □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

山根常男ほか編、『テキストブック家族関係学』ミネルヴァ書房（2800 円）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	42－11 ①	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	水野夏子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

中国の化粧文化、および中国と日本の化粧文化の比較について講義する。

授業の目的・到達目標

中国の化粧文化の特徴を知るとともに、日本の化粧文化にどのような影響をもたらしてきたのかについて理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	中国の化粧文化①	原始～唐代の化粧について講義。	プリント、パワーポイント
2	中国の化粧文化②	宋代～清代の化粧について講義。	プリント、パワーポイント
3	中国と日本の比較①	中国と日本の化粧文化の比較について講義。	プリント、パワーポイント
4	中国と日本の比較②	中国と日本の化粧文化の比較について講義。	プリント、パワーポイント
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	内容・形式等については授業の中で説明する。	70 %
その他（出席状況等）	出席と受講態度を重視する。	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。プリントを配布する。
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	42－11 ②	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	野村　仁美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

いま企業はどのような人材を求めているのか？
スキルや知識は大事だがそれ以前にコミュニケーションがとれる人が必要としている。
内面の装いをしっかり身につけメイクアップで外見の美しさとの両面で人間力を高めよう！
とにかく聞く授業よりＧワークや実習を多くして表現力をつけてほしい。

授業の目的・到達目標

コミュニケーションマナー（内面の装い）が習慣化できるようになりましょう！
自分に似合うメイクスキルを身につけ将来の就活に自信を持って望めるようになりましょう！
他人を好意的に見られるようになりましょう！

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1			
2			
3			
4			
5	学生と社会人の違い	なぜ人は働くのでしょう？G ワーク	プリント
6	コニュニケーションマナー	人との信頼関係にかかせない 5 つのマナー	プリント
7	ハンドケア	他人の手に触れ心地良さの提供　　実習	プリント
8	皮膚の基礎知識	スキンケアの大切さ　　実習	
9	メイクアップ	自分に似合うメイクアップ実習	プリント
10	自分のヴィジョンの発表	コミュニケーションマナー実習 聴く事の大切さ	プリント
11			
12			
13			
14			
15	まとめ	全体の授業総括	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り □無し	70　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と受講態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。プリント配布
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	42－11 ③	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	黄　貞允

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現在注目されている韓国の化粧文化を、日本と比較しながらその特徴について講義する。

授業の目的・到達目標

日本の隣国である韓国の化粧文化を知ることで、西洋とは違う日本と韓国の化粧文化を理解することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12	韓国における化粧の歴史	古代から現代に至るまで韓国の各時代における化粧の特徴を講義	プリント、パワーポイント
13	韓国の化粧文化	韓国の化粧文化を講義	プリント、パワーポイント
14	日本の伝統化粧の特徴	日本の伝統化粧の特徴を講義	プリント、パワーポイント
15	日本と韓国の比較	現代日本と韓国の化粧文化の比較を講義	プリント、パワーポイント
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

私語及び途中入室、途中退室は慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	40　%
試　　験	内容・形式については、授業の中で説明する。	40　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

使用しない。プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	42－12	授業科目名	家庭電器・機械	担当教員名	吉田福蔵

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

家庭の機械と電気機器について、その原理や構造および安全性、合理性など、生活者の立場から解説する。

授業の目的・到達目標

日常生活における電気機器や機械は、科学技術の進展により、新しいシステムや新規材料などが使われて新製品となる。受講者は、これらの的確な選択方法や必要な基礎技術知識を習得し、それを通じて日常生活を豊かなものにするための工夫、創造力および実践的な態度を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の概要、進め方および機械の歴史、分類	プリント(1)
2	機械の要素と機構	定義、要素、自転車、ミシン	プリント(2)
3	機械の運転伝達	カム、摩擦車、歯車、ねじ	プリント(3)
4	機械材料	種類、金属材料の機械的性質、プラスチック材	プリント(4)
5	電気エネルギーの形	これからのエネルギー、ルームエアコン、ヒートポンプの仕組み、冷蔵庫、SI 国際単位系	プリント(5)
6	電気一般	電気の発生と種類、用語と単位	プリント(6)
7	直流とオームの法則	抵抗の性質、抵抗率と導電率、温度係数と抵抗	プリント(7)
8	交流とは	交流の性質(周波数、周期、正弦波形)、単位	プリント(8)
9	交流回路素子と電力	回路素子の種類、位相角、交流電力と電力量	プリント(9)
10	電流の磁気作用	コイルの磁束、電磁誘導、変圧器と電圧	プリント(10)
11	住宅の電気配線	分電盤、漏電遮断機、スイッチ、コンセント、電気の図記号、電気料金の計算	プリント(11)
12	電気と食品の加熱	電熱機器、電気炊飯器、電子レンジ	プリント(12)
13	電動機の応用	誘導電動機の原理、扇風機、ヘアドライヤー、洗濯機、温水便座	プリント(13)
14	情報伝達の機器	音の特性、録音、CD、テレビ、製品の選択基準、仕様書と取扱説明書	プリント(14)
15	新しい照明器具	LED タイプの各種照明について	プリント(15)
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

毎回、講義で使用するプリントを配付するので、予習・復習すること。携帯電話の電源は、講義前に必ず切ること。講義中の私語は慎むこと。途中入室・退室は認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　毎回、授業の終了後に実施する。 □無し	15　%
レポート	■有り　課題テーマ:「家庭電気機器の安全かつ合理的な節電を考えた使用」 字数：A4 用紙 2 枚 □無し	20　%
試　験	内容・形式等につては、授業の中で説明する。	50　%
その他（出席状況等）	出席(受講態度を含む)を重視し、評価に考慮する。	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕池本洋一、財満鎮雄共著「標準家庭機械・電気」理工学社
稲見辰夫著「機械のしくみ」日本実業出版社　など

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	42－9	授業科目名	社会福祉論	担当教員名	大坪　勇

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

社会福祉とは現代社会におけるさまざまな生活問題に対応するものであるが、それは歴史的・社会的状況によって作り出されるものである。本講義では社会福祉の基礎を論じ、さらに人権・生存権保障の視点から、それぞれの社会福祉分野の理念と現状について学ぶ。

授業の目的・到達目標

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	社会福祉の理念	人権尊重、権利擁護、自立支援等	
2	社会福祉の思想と倫理	社会福祉の考え方について	
3	社会福祉の対象と主体	家族概念・変容・構造・役割	
4	社会福祉需要の変容	地域社会の概念と社会福祉との関係	
5	社会福祉の発展	歴史的発展過程について	
6	社会福祉法制の体系	社会福祉六法について	
7	社会福祉の制度体系	六法に基づく制度の体系について	
8	社会福祉の運営組織	施設と地域社会、制度と地域社会	
9	福祉サービスの提供と利用	利用者保護制度について	
10	社会福祉の財政と費用負担	応能負担と応益負担について	
11	社会福祉における公私の役割、調整	シルバーサービス	
12	地域福祉の概念	地域福祉への参加について	
13	地域福祉の内容	推進組織、担い手	
14	地域福祉計画及び財源	福祉財源とは何か	
15	社会福祉の民間福祉活動	福祉パイロット事業について	

履修上の注意・関連科目等

学生諸氏にあっては講義内容を鵜呑みにすることなく、常に批判的視点を持ち講義に臨まれたい。
また、主体的に講義に参加できる場面を設けるので積極的に論議に参画願いたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0　%
レポート	□有り ☑無し	0　%
試　　験		80　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『新・介護福祉士養成講座第２巻　社会と制度の理解』
介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規　ISBN:978-4-8058-3130-4

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2009

授業科目コード	42－10	授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	全炳昊

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

コミュニケーション「する」ことの意味

授業の目的・到達目標

人間のコミュニケーションを理解する上で、基本的な枠組みを確認する。
そのための、コミュニケーションの構造や形式、意味の仕組み、文化におけるコミュニケーション・ツールなど、具体的事例を通じてコミュニケーション全般を理解する。
コミュニケーションの過去と現在の狭間で、「自分」を見つめることに努める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の概要	
2	コミュニケーションの初め	基礎概念の紹介	
3	自己表現のコミュニケーション１	言語的なコミュニケーション	
4	自己表現のコミュニケーション２	非言語的なコミュニケーション	
5	社会とコミュニケーション１	関係のコミュニケーション	
6	社会とコミュニケーション２	説得と交渉のコミュニケーション	
7	文化とコミュニケーション	異文化コミュニケーション	
8	家族社会	親子間のコミュニケーション	
9	学校・教育社会	学校の社会学とコミュニケーション	
10	地域社会	ネットワークに対する考え方	
11	情報化社会とコミュニケーション１	マス・メディアを考える	
12	情報化社会とコミュニケーション２	情報化の社会病理	
13	発表・討論	自己表現とコミュニケーション	
14	発表・討論	自己表現とコミュニケーション	
15	発表・討論	自己表現とコミュニケーション	
	(試験)	（定期試験期間中に実施する）	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	定期試験期間中に実施。内容・形式などについては、授業中に説明する。	60 %
その他（出席状況等）	出席、講義中の提出物	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕
講義中に提示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	43−2	授業科目名	アパレル素材論	担当教員名	清水尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	3	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

アパレル(衣服)を製造・販売する側にも、選択・購入する側にも、基礎知識として役立つ布地の構成や特性および外観的イメージについて講義する。

授業の目的・到達目標

繊維・糸・織り方・編み方・仕上げ・加工等々の布地を構成している要素が、衣服の製服性・着用性から色・柄（模様)・光沢・透明感などによる表現性にまで連係していることを、衣服形態の変遷と共に理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	衣服デザイン教育Ⅰ	衣服の役割について講義	
3	衣服デザイン教育Ⅱ	衣服の起源について講義	
4	衣服形態の変遷Ⅰ	西洋の古代の服装について講義	
5	衣服形態の変遷Ⅱ	西洋の中世の服装について講義	
6	衣服形態の変遷Ⅲ	西洋の近世の服装について講義	
7	素材の構成Ⅰ	織柄の組織図について講義	
8	素材の構成Ⅱ	織柄のデザインについて講義	
9	素材の評価	布の風合について官能検査	
10	素材の模様Ⅰ	模様の種類について講義	
11	素材の模様Ⅱ	織柄について講義	
12	素材の模様Ⅲ	染柄について講義	
13	素材の種類	織物・編物・皮・毛皮等について講義	
14	素材の特性Ⅰ	繊維と糸について講義	
15	素材の特性Ⅱ	糸と布について講義	
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

①配布プリントのみ持ち込み可能で試験を実施するので、プリントの管理を怠らないこと。
②項目ごとに、内容の要約と理解度チェックのための練習問題を実施する。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	配布プリントのみ持ち込み可	50 %
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	44－1	授業科目名	食生活論	担当教員名	眞木優子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	2	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間の食生活に関する生態、文化、歴史、食品・栄養の知識、消費経済、食品の安全性などを総合的にとらえ、「食生活の課題」について解説し、「食」への正しい認識を育成する。

授業の目的・到達目標

健康を維持・増進し、QOL の向上のために必要な「食生活」に関する基礎的な知識と、正しい食習慣についての自覚を身に付ける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	食生活論の概要	講義の概要・食生活の意義について	テキスト pp9～11
2	食生活と栄養士①	日本の栄養行政①	テキスト pp12～32
3	食生活と栄養士②	日本の栄養行政②	テキスト pp12～32
4	日本の食生活史①	現代までの食生活史①	テキスト pp33～44
5	日本の食生活史②	現代までの食生活史②	テキスト pp33～44
6	日本の食様式	日本の食文化と食習慣	テキスト pp45～63
7	栄養面と食生活①	日本人の栄養状態、幼児期～学童期	テキスト pp64～75
8	栄養面と食生活②	青年期の貧血・摂食障害	テキスト pp76～79
9	栄養面と食生活③	壮年期の生活習慣病①	テキスト pp80～88
10	栄養面と食生活④	壮年期の生活習慣病②	テキスト pp80～88
11	栄養面と食生活⑤	老年期の低栄養・骨粗鬆症	テキスト pp89～92
12	安全面と食生活①	食品の安全性	テキスト pp117～120
13	安全面と食生活②	食品汚染物質と健康被害	テキスト pp121～136
14	安全面と食生活③	食品添加物、新しい食品と安全性	テキスト pp137～143
15	健康のための食生活	栄養・食糧・食品公害問題	テキスト pp146～149
	（試験）	実施する	

履修上の注意・関連科目等

授業中の禁止事項
　携帯電話の使用、飲食、メイク、私語、無断退出
必要に応じて資料を配布する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		80　%
その他（出席状況等）		20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕健康と食生活[改訂版]　吉田　勉　編著　学文社
〔参考書・その他〕
健康・栄養情報研究会「国民栄養の現状」、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」共に第一出版ほか

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	44－2	授業科目名	スローフード論	担当教員名	藤田 武弘

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

国際化の進展により，わが国の食料流通システムは大きく変化し，世界各国・地域から安価で大量の農産物・食品が輸入されている。一方で，食の安全性確保や食の「外部化（中食・外食への依存)」によって喪われた「食（消費)」と「農（生産)」との関係性を見直そうとする動きも拡がっている。本講義では，経済効率のみを追求する従来型システムの対局に位置する「地産地消」や「スローフード」などの動きに焦点を当て，その生産と流通の特徴，ならびに現代的意義を講述する。

授業の目的・到達目標

生活に最も身近な「食」に関わる様々な問題の発見を通じて，現代社会や経済の動向を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義ガイダンス	現代日本の食と農に関わる問題点を概説	配付プリント
2	食料供給システム	国際化の進展と食料自給率の行方を講義	同上
3	食の環境変化①	安全・安心の確保をめぐる諸問題を講義	同上
4	食の環境変化②	外部化（中食・外食依存）に伴う諸問題を講義	同上
5	食と農との関係①	食とその基盤をなす農業との関係を講義	同上
6	食と農との関係②	都市農村交流の新たな動向について講義	同上
7	日本の地産地消	日本における定義・特徴・意義について講義	同上
8	世界の地産地消	世界各地での食のローカリズムの特徴を講義	同上
9	農産物直売所の実態	農産物直売所の開設経緯と展開状況を講義	同上（DVD 資料）
10	農産物直売所の役割	農産物直売所の意義と波及効果を講義	同上
11	体験教育旅行の意義	農家民泊における食体験の役割について講義	同上
12	学校給食の意味	食育基本法と学校給食の現状・課題を講義	同上
13	地域特産とブランド	地域特産加工品の原料調達の特徴を講義	同上
14	スーパーの仕入行動	スーパーの食品仕入構造とその特徴を講義	同上
15	スーパーの販売戦略	スーパーの食品戦略の特徴を講義	同上
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

履修希望者は，第 1 回目の講義ガイダンスに必ず出席すること。毎回，配付されたプリント・資料等（すでに配布されたものも含む）を持参すること。また，講義中の私語・居眠りおよび途中入退室は出席とは認めないので，厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　毎回の講義終了時に「ミニレポート」を提出すること □無し	30 %
試　験	実施する。内容・形式については講義中に説明する。	50 %
その他（出席状況等）	時間中の発言・質問など講義への「参加度（積極性)」を評価する	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　とくに定めない。

〔参考書・その他〕

橋本卓爾・山田良治・藤田武弘・大西敏夫編著『都市と農村』日本経済評論社，2011 年。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	44－3	授業科目名	クッキング	担当教員名	髙谷 小夜子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

食物は、健康な生活を営む上で不可欠なものです。安全で、栄養的に満たされ、食べる人の嗜好にあい、しかも経済的な料理を提供できるように、身近な食品での実習を行う。
グループでの実習を通して、協調性を養うように指導する

授業の目的・到達目標

基礎的な調理技術を学ぶ。食品を衛生的に取り扱う方法を学ぶ。食事のマナー、片づけなど基本的な生活習慣を身につけるように学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方	班分け、実習説明、実習心得	プリント
2	簡単なお菓子作り	ホットケーキミックスを使用して	プリント
3	和食の基本 1	ご飯の炊き方、煮干しだしのとり方	教科書・プリント
4	和食の基本 2	塩味のご飯、混合一番だしのとり方、煮物	
5	和食の基本 3	焼き魚、白和え	
6	和食の基本 4	天ぷら（下ごしらえ、揚げ方）	
7	和食の基本 5	かやくご飯、魚のさばき方、白玉粉の調理	
8	洋食の基本 1	ストックのとり方、ハンバーグ	
9	中国料理 1	湯のとり方、青椒肉絲、杏仁豆腐	
10	中国料理 2	焼売、春巻き、蒸しカステラ	
11	洋食の基本 2	グラタン、ゼリー	
12	洋食の基本 3	パスタ、ロールケーキ	
13	洋食の基本 4	ピラフ、クッキー	
14	和食の基本 6	寿司飯の作り方、希釈卵料理	
15	実習室の衛生管理	サンドイッチ、スープ、器具の点検と清掃	
	(試験)	実施	

履修上の注意・関連科目等

所定の実習の服装で臨むこと（守らない時は受講できない）
遅刻厳禁
2 講時の連続した授業（途中休憩なし）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　実習ノートの作成 □無し	30 %
試　験	内容、形式は授業内に説明	30 %
その他（出席状況等）	出席を重視する。実習中の態度、服装も評価の対象とする。	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「調理学実習」　大谷貴美子・饗庭照美編　講談社サイエンティフィク　2940 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	45－1	授業科目名	ハウスプランニング	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本授業では家政学における住居学の基本的な内容を講義する。住居学を構成する分野のうち、住文化・住様式、住居計画、住環境工学、居住管理、居住政策についてとりあげる。それらを家庭生活との関わりから考察し、豊かな住生活を提案するために必要な基礎的知識や視点を概説する。

授業の目的・到達目標

家政学の住居学の基本的内容を理解し、豊かな住まい・住環境を実現させるための住まい方、および設計条件や社会条件等について、総合的に考慮した提案ができる。また、客観的な知見と主体的な考察をもとにして、これからの住生活のあり方について述べることができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方の説明／住居学とは	講義資料
2	住まいの機能	住まいの役割	P16-17
3	住まいの歴史(1)	日本の庶民住宅の変遷（古代～近世）	P22-31
4	住まいの歴史(2)	日本の住宅の近・現代の特徴	P32-35
5	住まいと生活様式	起居様式の特徴、日本の民家の特徴	P14-15､30-31､38-139
6	平面計画の理論	生活行為と住空間・平面タイプ・間取りを読む	講義資料
7	住まいの公私空間	家族の生活と私室・公室の意義や特徴	P12-13､134-137
8	家族と住まい	現代の家族のライフスタイルと住まい･居住環境	P52-63､132-133
9	少子高齢社会と住まい	少子高齢社会での住まい・居住環境の課題	P94-113
10	室内環境(1)	快適で健康な音・光環境の条件	P70-73
11	室内環境(2)	快適で健康な風・熱環境の条件	P66-69
12	住まいの維持･管理	住まいの維持・管理の意義と内容	講義資料
13	快適な居住環境	快適で持続可能な居住環境・まちの条件	P80-91
14	住まいの問題と政策	日本の居住問題と居住政策の特徴、居住の権利	講義資料
15	人間らしい住まいを考える	全体の理解度の確認と授業総括	講義資料
	(試験)	期末試験の実施	

履修上の注意・関連科目等

本授業は生活マネジメントコースの必修科目であり、「教職課程（家庭科）」および「インテリア設計士」の必須科目です。住生活・住空間・住環境に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集（住宅プランを集める、本を読む等）に心がけるなどして関心を高めておきましょう。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜レポート課題を実施する。 □無し	20　%
試　験	期末テストを実施する。	60
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

「図解住居学１　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2011 年）2,940 円

〔参考書・その他〕

授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	45−2	授業科目名	インテリアコーディネート論	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本授業では、より美しく快適な住空間を構成するために必要なインテリアの基礎的知識について講義をする。インテリアデザイン史、インテリア計画、材料、構造、設備機器、関連法規・法令などについて幅広く解説し、生活者の視点からみた好ましいインテリアとは何かについて共に考察していく。

授業の目的・到達目標

インテリアコーディネートに関する基礎的知識の習得が目的である。具体的には、①インテリア関連の基礎的内容を理解し説明ができる。①住み手と住宅供給側の求める条件を総合的に理解できる。②アメニティの高いインテリアデザインを実現するための空間課題を考え、自分なりの提案ができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要等の説明／インテリアとは	講義資料
2	住まいと風土	世界各地の風土と住まいのデザイン等の関係	P10-11
3	インテリアの歴史(1)	日本のインテリアと建築の歴史（古代～近世）	P22-31
4	インテリアの歴史(2)	西洋のインテリアと建築の歴史（古代～近世）	(P38-45)
5	インテリアの歴史(3)	近・現代のインテリア／インテリアスタイル	P34-35、P46-49
6	インテリアと人間	人間工学の基礎と家具・インテリアへの応用	講義資料
7	色彩計画	住まいの色彩計画の方法と効果	P74-75
8	照明計画	住まいの照明計画の方法と効果	P72-73
9	ｲﾝﾃﾘｱｽﾀｲﾙと装飾・装備	インテリアスタイルの分類／ｳｨﾝﾄﾞｰﾄﾘｰﾄﾒﾝﾄ等	
10	住宅各室の計画	住宅各室のインテリア・家具計画	(P16-17)
11	インテリアと構法	住宅の建築構造の種類・特性・インテリア構成	P118-123
12	インテリアと材料	インテリアの構成材料の特性	P116-117
13	インテリアの設備・機器	快適な室内環境のために必要な設備とその計画	講義資料
14	インテリア関連法規	インテリア関連の法規・法令や制度の基礎知識	講義資料
15	インテリアの新課題	少子高齢化・持続可能社会とインテリア／授業総括	
	(試験)	期末試験の実施	

履修上の注意・関連科目等

本授業は「インテリア設計士」の必須科目です。インテリアに関する知識や技術を深めるためには、日常生活の中で常に新しい家具やデザインに接することが大切です。そのため、積極的に新しいインテリアデザインを体験できる場に足を運んだり、書籍・雑誌などに目を通したりして、インテリア・家具に関する情報収集をして下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜レポート課題を実施する。 □無し	20　%
試　験	期末テストを実施する。	60
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「図解住居学１　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2011 年）2,940 円
〔参考書・その他〕
「インテリア設計士テキスト＜学科編＞」（加藤力他・日本インテリア設計士協会）2,000 円　など

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	45−3	授業科目名	ハウスプランニング実習	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本授業では、立体的な住空間を 2 次元上に表現することの意義・役割を解説し、住宅図面を描く際に必要となる設計製図の初歩的技術について指導する。また、実習を通して受講生が快適で住みやすい住宅・住空間を図面として提案できることをめざし、製図技術のほか、空間把握力・設計計画力・創造表現力・プレゼン技術などの習得を目的とした課題を段階的に提示し解説する。

授業の目的・到達目標

住宅図面を描くための基礎的な約束ごとを正確に身につけることが到達目標である。
①住宅図面の模写・設計作業を通して、住宅図面が示す様々な空間情報を正確に理解できる。
②住宅図面の描き方や作図技術を身に付け、第 3 者に空間情報が正確に伝わるような図面を描ける。
③住宅図面から三次元空間をイメージでき、自分が思い描く住まいを平面図上に表現できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業概要／製図の目的／図面の解説／用具の解説	講義・課題資料
2	直線の練習	線の種類･描き方の解説／直線と製図用文字を描く	講義・課題資料
3	曲線の練習	円の描き方の解説／曲線の図形を描く	講義・課題資料
4	表示記号の練習	平面表示記号の模写／出入口･窓･設備・家具等を描く	講義・課題資料
5	平面図の基礎練習(1)-①	住空間の平面図（S=1:50）の模写	講義・課題資料
6	平面図の基礎練習(1)-②	上記の続行作業と着色仕上げ	講義・課題資料
7	平面図の基礎練習(2)-①	木造住宅の平面図の模写　（主要設備家具含む）	講義・課題資料
8	平面図の基礎練習(2)-②	上記の続行作業と仕上げ・完成	講義・課題資料
9	配置図の基礎練習(1)	配置図の模写と庭園設計の練習	講義・課題資料
10	住宅の自由設計　①	①設計条件と構想：設計概要／ラフスケッチ作業開始	講義・課題資料
11	住宅の自由設計　②	②ラフスケッチ　：ラフスケッチ完成／平面図の作成	講義・課題資料
12	住宅の自由設計　③	③平面図の完成　：平面図の作成（続行作業）	講義・課題資料
13	住宅の自由設計　④	④配置図の完成　：配置図の作成／想定家具カタログ	講義・課題資料
14	住宅の自由設計　⑤	⑤プレゼンボード：設計趣旨の作成とプレゼンボード	講義・課題資料
15	まとめ（総評会）	⑥作品発表会　　：最終作品のプレゼンテーション	講義・課題資料
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

本授業は「教職課程（家庭科）」および「インテリア設計士」の必須科目です。快適でデザイン的にも優れた住宅設計の提案をするためには、数多くの優れた住宅プランに触れてそれらを沢山模写したり、関連する情報を積極的に収集したりして、自分のデザイン感性を高めておくことが大切です。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	提出された全ての課題の内容をもって評価する。	70　%
その他（出席状況等）	受講姿勢（出席状況も含む）も評価の対象とする。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「インテリア設計士テキスト〈実技編〉」(加藤力他編著、日本インテリア設計士協会、2010 年）1,200 円
〔参考書・その他〕　授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	46－1	授業科目名	生活と環境（生活環境論）	担当教員名	鶴保謙四郎

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活者の立場から、生活と環境を考察する。日常生活を取り巻く環境、食などを科学するもので、地球温暖化や水質汚濁、大気汚染、廃棄物問題、食の安全などをできるだけ平易に解説する。また、最大の環境問題でもある地球の人口爆発についても紹介する。

授業の目的・到達目標

将来社会人として、自主的に環境にやさしい生活(環境負荷の低減を目指す社会生活や家庭生活)や、かしこい食生活を営むことができることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の進め方、評価の行い方等授業方針の説明	プリント有
2	地球の温暖化	原因・現状、社会的な取り組み等	〃
3	水と生活	飲料水等生活用水と水質汚濁	〃
4	食の安全Ⅰ	食品添加物、食品表示	〃
5	食の安全Ⅱ	食品汚染物質	〃
6	食の安全Ⅲ	食物アレルギー、BSE、遺伝子組み換え食品	〃
7	農薬と化学物質	農薬や化学物質の使用の実態と意義	〃
8	大気汚染	酸性雨やオゾン層の破壊について	〃
9	環境ﾎﾙﾓﾝ・ﾀﾞｲｵｷｼﾝ	過去・現在・将来	〃
10	各種の環境問題	土壌汚染や地下水汚染等について	〃
11	地球環境の保全	病める地球について	〃
12	ゴミ問題	一般廃棄物の問題点と対策	〃
13	循環型社会の構築	持続ある発展その一歩は廃棄物から	〃
14	都市化の諸問題	おもにヒートアイランド現象について	〃
15	安全･環境リスクと生活の質	リスクの要因と対処の仕方	〃
	(試験)	全体の理解度の確認	

履修上の注意・関連科目等

私語及び携帯電話厳禁、途中入室、途中退出を慎むこと。
出席回数は、全体の 2/3（10 回）以上を基本とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0 %
レポート	☑有り　課題は検討中 □無し	20 %
試　験	実施する。内容・形式等は授業の中で示す。	40 %
その他（出席状況等）	受講態度を評価する。	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　使用しない。
〔参考書・その他〕
・『環境･エネルギー･健康 20 講－これだけは知ってほしい科学の知識』今中･廣瀬著、化学同人、2000 円＋税
・環境省・厚生労働省等の HP

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47－1	授業科目名	発達心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	必修科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間の発達についてさまざまな現象を収集、整理し、その法則や原理をどの年齢段階の発達にも適応できるように研究する学問であるため心理学的側面から考察していく。

授業の目的・到達目標

子どもの教育や援助には子どもの発達段階に応じて何が主要な課題であるのかを把握することが重要となるため乳児から青年までのそれぞれの発達課題とそれに応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	発達とは	発達の傾向と発達段階	プリント
2	乳児期の発達段階	胎生期・胎児期・乳児期の心身の発達	プリント
3	乳児期の発達課題	乳児期の愛着関係と母子関係	プリント
4	幼児期の発達段階	幼児期前期・後期の心身の発達と遊び	プリント
5	幼児期の発達課題	幼児期前期・後期の自主性と自己コントロール	プリント
6	児童期の発達段階	児童期前期・後期心身の発達と仲間関係	プリント
7	児童期の発達課題	児童期前期・後期の恥とコンピテンス	プリント
8	思春期の心身の発達と発達課題	思春期の葛藤と自己受容	プリント
9	青年期の心身の発達と発達課題	自己アイデンティとアイデンティ拡散	プリント
10	知的機能の発達	記憶の発達、思考の発達と教育	プリント
11	社会性の発達	親子関係とコミュニケーションの発達、ソシオメトリー	プリント
12	感情の発達	感情発達の理論と発達的変化	プリント
13	道徳行動の発達	道徳行動の認知的発達段階	プリント
14	パーソナリティの発達	パーソナリティの発達の形成とメカニズム	プリント
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	10　%
レポート	□有り □無し	10　%
試　　験		50　%
その他(出席状況等)	出席と授業参加度を重視する	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	47－2	授業科目名	青年期と心	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

青年期の一番重要な課題は第 2 次性徴と自己アイデンティの確立である。身体の成熟に伴い、身体への意識の高まりやさまざまな人間関係から自分自身への認識への深化といった、青年期の課題に焦点をあてて講義する

授業の目的・到達目標

青年期は、子どもから成人への移行期でもあるため、心身とも大きく変化する時期である。心理的に情緒が不安定になりやすい。ところが、この時期の重要なことはこの時期をどのように過ごすかは、その後の人生に大きな影響を及ぼす。受講生は青年期を生きる人達であるため自己理解を深めながら自分らしさや自己のあり方を模索できるようにグループカウンセリングも取り入れて講義していきたい

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の内容や進め方など説明	プリント他
2	青年期とは	第 2 次性徴に伴う心身の変化	プリント他
3	青年期の特異性	現在青年の心身をめぐる諸問題	プリント他
4	青年期の発達課題	アイデンティティをめぐる問題	プリント他
5	性的成熟（1）	異性関係	プリント他
6	性的成熟（2）	男らしさ、女らしさ	プリント他
7	青年期の自己（1）	自分とはなにか	プリント他
8	青年期の自己（2）	どんな自分になりたいか	プリント他
9	友人関係（1）	友人関係の意義	プリント他
10	友人関係（2）	友人関係における諸問題「	プリント他
11	自律性と愛着	親子関係と諸問題	プリント他
12	青年期の諸問題（1）	事例を中心に	プリント他
13	青年期の諸問題（2）	事例を中心に	プリント他
14	青年期後期以降の問題	青年期後期の心理的諸問題を中心に	プリント他
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・　内容に応じて、簡単な実習を取り入れるので、積極的に参加してください
・　出席しても聞いていないなど受講態度が悪い場合は厳しく対応する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験		65　%
その他（出席状況等）	毎回の出席状況より判断する	35　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕なし
〔参考書・その他〕紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2010

授業科目コード	47－3	授業科目名	高齢者の心理	担当教員名	福嶋 正人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

わが国では急速に高齢化が進んでおろ、高齢者に対する社会的サポートの整備が急務である。しかし制度の充実だけでなく、高齢者の特徴や心理について理解することが高齢社会を迎えるにあたり、大切である。本講義では高齢者が抱えがちな問題を通して高齢者の心理についての理解を進める。

授業の目的・到達目標

高齢者の特徴や心理、社会的な課題について理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進行方法等について説明する。	適宜配布
2	少子化、高齢化とは	少子高齢社会について理解する。	適宜配布
3	高齢化の背景	高齢化の社会的背景について理解する。	適宜配布
4	高齢者とは①	高齢者とはなにかを理解する。	適宜配布
5	高齢者とは②	高齢者とはなにかを理解する。	適宜配布
6	高齢期の特徴①	高齢期の特徴について理解を深める。	適宜配布
7	高齢期の特徴②	高齢期の特徴について理解を深める。	適宜配布
8	高齢者と疾病	高齢者に多い疾病について理解する。	適宜配布
9	認知症	認知症について理解する。	適宜配布
10	高齢者の経済	高齢期の経済について理解する。	適宜配布
11	老化と心理的変化①	高齢者の心理的変化について理解する。	適宜配布
12	老化と心理的変化②	高齢者の心理的変化について理解する。	適宜配布
13	高齢者と家族	高齢者と家族の関係について理解する。。	適宜配布
14	長寿化	長寿化に伴う高齢者の心理について理解する。	適宜配布
15	まとめ	講義の振り返り	
	(試験)	客観問題による試験を実施する。	

履修上の注意・関連科目等

授業中の私語、携帯電話の使用に対しては厳しく対応する。オリエンテーションの際に受講のルールを説明する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し　行わない。	%
レポート	□有り □無し　行わない。	%
試　験		85 %
その他（出席状況等）		15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特に指定しない。

〔参考書・その他〕適宜アナウンスを行う。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47－4	授業科目名	教育心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

教育に関する多くの課題に対して、いかにして教育効果を高めるかである、そのためにはどのような心理学的知見や技術を用いるかである。教育効果を高める講義を展開していく。

授業の目的・到達目標

子どもの教育において、効果的な学習とはどのようなものなのか、また、どのように子どもと関わり、働きかけをしていくのかを考慮するのには子どもの発達や課題を把握することが重要となる。そのため子どもの発達に応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	動機づけ理論	内発的動機と外発的動機について	プリント
2	均衡化理論	均衡と不均衡についての理論の説明	プリント
3	学習における賞罰の効果	達成動機と賞罰の限界について	プリント
4	学習の過程と課題分析	学習の構造の説明と課題の達成	プリント
5	発達の最近接領域	課題解決のための発達の水準について	プリント
6	学習方式	さまざまな学習方法について	プリント
7	教授方法	実際の授業実践	プリント
8	集団規範	いい学級集団の特質	プリント
9	リーダーシップ訓練	集団の目標達成と維持機能について	プリント
10	ソシオメトリー	人間関係発見の方法	プリント
11	教育評価（1）	教育評価の目標と方法	プリント
12	教育評価（2）	学力とその評価	プリント
13	現代の教育問題（1）	いじめの問題と教育心理学	プリント
14	現代の教育問題（2）	不登校の問題と教育心理学	プリント
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	10　%
レポート	□有り □無し	10　%
試　　験		50　%
その他(出席状況等)	出席と授業参加度を重視する	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	47－5	授業科目名	臨床心理学	担当教員名	谷村　昌美

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門教育科目 人間と心理	必修科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

臨床心理学とは何か，また臨床心理学で扱う心理的な問題や心理検査，治療技法について学ぶ。

授業の目的・到達目標

臨床心理学についての基本的な知識を学ぶと共に，人間理解を深めることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要，目的，進め方について	プリントを配布
2	臨床心理学とは	臨床心理学のあゆみと理論的背景	〃
3	臨床心理学査定	臨床心理学査定の意味，基本的視点	〃
4	心理検査 1	心理検査の体験	〃
5	心理検査 2	発達検査，知能検査，人格検査	〃
6	心理検査 3	質問紙法，作業検査法，投影法	〃
7	実習と小テスト	心理検査を用いた実習と小テストの実施	〃
8	臨床心理学的治療 1	臨床心理学的治療の意味，有効性	〃
9	臨床心理学的治療 2	臨床心理学的治療技法	〃
10	精神障害と心理臨床 1	神経症と心理学的関わり	〃
11	精神障害と心理臨床 2	統合失調症の諸症状	〃
12	精神障害と心理臨床 3	統合失調症とその心理的援助	〃
13	精神障害と心理臨床 4	Social Skills Traing の実践	〃
14	発達障害 1	発達障害の諸症状	〃
15	発達障害 2	広汎性発達障害とその援助	〃
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

講義を基本とするが，心理テスト等の実習も取り入れながら授業を行う。
授業の進度により，内容を一部変更することがある。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　第 7 回の授業時に実施する。 □無し　内容および形式については授業内で説明する。	30　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	筆記試験を実施する。持ち込みは認めない。 内容および形式については授業内で説明する。	40　%
その他（出席状況等）	出席状況を評価する	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
特に使用しない。適宜プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
授業内で適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47－6	授業科目名	障害者の心理	担当教員名	福嶋 正人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代においては障害がある人の社会参加や、差別・偏見を排除することが社会的な課題である。また高齢化や医学の進歩に伴い、障害者は増えつつあり、概念自体も変化してきている。

本講義では障害者が抱えがちな問題や制度等、広範な課題を通して障害者の心理についての理解を進める。

授業の目的・到達目標

障害者の特徴や心理、社会的な課題について理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進行方法等について説明する。	適宜配布
2	障害とは	障害について理解する。	適宜配布
3	障害とは②	障害について理解する。	適宜配布
4	歴史について	障害に関する歴史を理解する。	適宜配布
5	障害者の個別性①	障害者の個別性について理解する。	適宜配布
6	障害者の個別性②	障害者の個別性について理解する。。	適宜配布
7	社会的排除①	障害期に対する社会的排除を理解する。	適宜配布
8	社会的排除②	障害期に対する社会的排除を理解する。	適宜配布
9	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理を理解する。	適宜配布
10	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理②	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた心理を理解する。	適宜配布
11	障害者と心理①	心理的特特性について理解する。	適宜配布
12	障害者と心理②	心理的特特性について理解する。	適宜配布
13	障害者の社会参加①	障害者の社会参加について理解する。	適宜配布
14	障害者の社会参加②	障害者の社会参加について理解する。	適宜配布
15	まとめ	講義の振り返り	
	(試験)	論述問題による試験を実施する。	

履修上の注意・関連科目等

授業中の私語、携帯電話の使用に対しては厳しく対応する。オリエンテーションの際に受講のルールを説明する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し　行わない。	%
レポート	□有り □無し　行わない。	%
試　験		85 %
その他（出席状況等）		15 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特に指定しない。

〔参考書・その他〕適宜アナウンスを行う。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47－7	授業科目名	性格分析	担当教員名	長田　道

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人の性格というものはどのように形成されるのだろうか。本授業では、性格を理解するための理論について講義を行い、さらには実際に心理テストを体験する。それらを通じて、人の心を理解することを目的とする。

授業の目的・到達目標

性格という目に見えないものを理解するにあたって、心理テストがどのような役割を果たすのかについて考えていく。また、性格の形成に影響するものについても考えていく。最終的に、自分を含めた、人の心について考えることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の大まかな内容、進め方について	
2	性格とは①	性格理論について	
3	性格とは②	性格の類型論について	
4	性格検査について	性格分析に使われる心理テストの基礎知識	
5	性格分析の実際	東大式エゴグラム（ＴＥＧ）を実施する	
6	性格分析の実際	ＴＥＧを基に性格傾向を分析する	
7	性格分析の実際	Ｐ－Ｆスタディを実施する	
8	性格分析の実際	Ｐ－Ｆスタディを基に性格傾向を分析する	
9	性格分析の実際	作業検査と性格分析について考える	
10	性格分析の実際	描画検査と性格分析について考える	
11	性格の発達	性格はどのように形成されるのか	
12	性格と環境①	性格はどのように周囲の影響を受けるのか①	
13	性格と環境②	性格はどのように周囲の影響を受けるのか②	
14	性格と病理	性格と病理との関係について考える	
15	まとめ	授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。さらに、遅刻・欠席でテスト体験をされていないと、レポートも書けず大幅減点となるので留意すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　各授業の後に簡単な感想レポートを書いてもらう □無し	20　%
レポート	■有り　3本のレポートを求める　テーマは授業中に発表する □無し	60　%
試　験	なし	%
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特になし。授業の中で必要なときに配布する。

〔参考書・その他〕

適宜授業の中で紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47−8 ①	授業科目名	セラピーの実際 (コスメセラピー)	担当教員名	小林　美枝子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

高齢者や介護を受けている方を対象にした心のケアのひとつとしてメイクセラピーの講義と実習をします。

授業の目的・到達目標

メイクセラピーに必要な皮膚の科学、高齢者の心理・コミュニケーション、認知症を理解します。
実際に人の皮膚や手に触れ、心のケアに役立つ技術を身につけます。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義の目的、進め方	講義の概要を説明。自分を分析する	
2	高齢者の心理	高齢者の心理・認知症高齢者の特徴と症状	プリント配布
3	ハンドケア	ハンドマッサージとマニュキュアの体験	実習
4	皮膚の科学と手入れ	皮膚の仕組みを科学的に理解する	プリント配布
5	メイクセラピーとは	美容による心理的・身体的効果について	プリント配布
6	メイクの実際	メイクセラピーの心構えとコミュニケーション	プリント配布
7	メイク実習	自分にメイク	実習
8	メイク実習	人にメイク	実習
9	園芸セラピー（別途シラバス参照）		
10			
11			
12			
13			
14			
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

出席率を重視します。特に実習は欠席しないようにしてください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　字数、課題テーマは初回講義時に発表します。 □無し	30 %
試　験		%
その他（出席状況等）		70 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2009

授業科目コード	47−8 ②	授業科目名	セラピーの実際 (園芸セラピー)	担当教員名	山中　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

身近な植物や自然とのふれあいを心と体の健康に役立てる園芸療法。植物を媒介とした社会参加、生きがいづくりなど、広い意味での心身の癒しにつなげる園芸福祉。これらに、ボランティア等による地域社会での園芸活動を加えたものを、大きく園芸セラピーととらえ、その理論と実践について講義する。

授業の目的・到達目標

五感を通して心身に総合的に働きかける園芸セラピーの基礎的な知識を身につける。医療・福祉・教育・地域社会等、実際に現場で行われている事例について知り、園芸の効用について考察する。実習では、植物の栽培や園芸プログラムを通じて、その実践上のポイントを学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	園芸セラピー概論①	園芸セラピーの意義・歴史	
2	園芸セラピー概論②	園芸セラピーの実践例など	
3	園芸セラピー概論③	園芸セラピーの実践例など	
4	実習①	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム①	
5	実習②	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム②	
6	実習③	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム③	
7	実習④	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム④	
8	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

園芸の特性上、気候等によって授業スケジュールを変更する場合がある。実習は動きやすく汚れても構わない服装で受講すること。植物の栽培・観察がレポート課題の１つであること、実習材料を自宅に持ち帰る必要があることをあらかじめ了解の上で受講すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	30　%
レポート	☑有り □無し	30　%
試　　験		%
その他（出席状況等）		40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし　適宜資料を配布する

〔参考書・その他〕講義中に示す

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47−9	授業科目名	カウンセリング論Ⅰ	担当教員名	池島　徳大

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

カウンセリングとはどのようなものなのか。その一部を体験し、人間理解の奥深さと他者とのリレーションの取り方の大切さを学ぶ。また、現在の大きな教育課題である不登校やいじめ、ＡＤＨＤへの対応事例を紹介し、カウンセリングの視点から援助過程について解説する。

授業の目的・到達目標

カウンセリングに必要な理論背景などに触れつつ、どのようなアプローチによってクライエントに接近可能なのかについて様々な角度から理解することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	オリエンテーション	
2	実習	ブラインドウォークなどのリレーション演習	
3	講義・実習	心理教育的援助サービス	
4	講義・実習	ストレッサーとストレス反応	
5	講義・実習	カウンセリングのプロセス	
6	実習	言語的スキルと非言語的スキル	
7	実習	傾聴スキル演習①	
8	実習	傾聴スキル演習②	
9	実習	ピア・ヘルピング演習①	
10	実習	ピア・ヘルピング演習②	
11	実習	ピア・ヘルピング演習③	
12	講義・実習	発達援助としてのカウンセリングの実際（不登校事例）	
13	講義・実習	発達援助としてのカウンセリングの実際（いじめの事例）	
14	講義・実習	発達援助としてのカウンセリングの実際（ＡＤＨＤ事例）	
15	まとめ	全体授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので留意されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	60　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　特になし。必要なときに配布する。

〔参考書・その他〕

佐藤修策監修、池島徳大他著　学校カウンセリングの理論と実践　ナカニシや出版　2007

池島徳大監修・著　ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法　ほんの森出版　2011

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2013

授業科目コード	47－10	授業科目名	カウンセリング論Ⅱ	担当教員名	池島　徳大

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

カウンセリングの基礎的理論・援助技法について、ロールプレイング等の体験を通して学ぶ。カウンセリングとはどのようなものなのか。その内容と実際について、その一部を体験することを目的とする。

授業の目的・到達目標

カウンセリングに必要な理論背景などに触れつつ、どのようなアプローチによってクライエントに接近可能なのかについて様々な角度から理解することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	オリエンテーション	
2	カウンセリングとは	カウンセリングの対象と内容	
3	カウンセリングとは	カウンセリングの基本技法	
4	カウンセリングとは	カウンセリングの構造枠	
5	精神分析療法に学ぶ①	精神分析療法とその枠組み	
6	精神分析療法に学ぶ②	精神分析療法とその枠組み	
7	行動療法に学ぶ①	行動療法とその枠組み	
8	行動療法に学ぶ②	行動療法とその枠組み	
9	来談者中心療法に学ぶ①	来談者中心療法とその枠組み	
10	来談者中心療法に学ぶ②	来談者中心療法とその枠組み	
11	解決志向アプローチに学ぶ①	解決志向アプローチとその枠組み	
12	解決志向アプローチに学ぶ②	解決志向アプローチとその枠組み	
13	カウンセリング演習①	ロールプレイを通して、カウンセリングの実際を体験する	
14	カウンセリング演習②	ロールプレイを通して、カウンセリングの実際を体験する	
15	まとめ	全体授業総括	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。さらに、遅刻・欠席で実習を体験されていないと、レポートも書けず大幅減点となるので留意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので承知されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　各授業の後に簡単な感想レポートを書いてもらう。 □無し	30　%
レポート	■有り □無し	50　%
試　　験		30　%
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし。必要なときに配布する。
〔参考書・その他〕　適宜授業の中でお知らせする。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	47－11	授業科目名	社会心理学	担当教員名	全炳昊

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

「社会（集団)」の中で、「個」をいきることの意味

授業の目的・到達目標

人は個人として社会を生きるとともに、他者との社会的関係やその関係を規定する様々な規範・文化との関係で、実際の行動を起こしている。
本講義では、社会学と心理学の境界科学としての社会心理学を理解することに努める。
そのために、私たちが日常生活の中で普段、疑問に思うような身近な「素材」を研究の対象とする。
身近な物事に対する再考を通じて、社会の中に存在する「わたし」の意味を探る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の概要	
2	社会心理学の対象と方法 1	研究対象としての人間・人間社会	
3	社会心理学の対象と方法 2	研究方法としてのフィールドワーク	
4	パーソナリティ 1	「わたし」って何？	
5	パーソナリティ 2	「他人」という鏡	
6	パーソナリティ 3	人間の感情はどう表現されるのか？	
7	集団 1	なぜ、集団に所属したいのか？	
8	集団 2	他人を「信頼」することの意味	
9	文化 1	社会的ルールは、どう創られるのか	
10	文化 2	流行の構造	
11	社会変動 1	「若者」の社会史	
12	社会変動 2	「伝統的」なものに対する考え方	
13	犯罪・非行 1	人はなぜ、「犯罪」を犯すのか？	
14	犯罪・非行 2	子どもたちはなぜ、「むかつく」のか？	
15	犯罪・非行 3	「殺人犯」を赦すことはできるのか？	
	(試験)	（定期試験期間中に実施する）	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	定期試験期間中に実施。内容・形式などのついては、授業中に説明する。	60 %
その他（出席状況等）	出席、講義中の提出物	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕
講義中に提示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	47－12	授業科目名	カウンセリング演習Ⅰ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
カウンセリング実務士資格	必修科目	3	前期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻

授業のテーマ・概要カウンセリングは時間性の混同や自分に問題解決できるものと他者に問題解決を求めるものとの整理でもある。人間本来の生き方ができるように、また、問題解決力をつけソーシャルスキルを身につけるよう支援していくことでもある。

授業の目的・到達目標
カウンセリング場面で多くの人と交流体験のなかで自分の感情を客観的に把握できるスキルを身につけていくことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の内容と進め方	プリント
2	発達課題と阻害事例事例研究	ライフコース（幼児期・児童期・思春期）の発達課題と阻害事例研究	プリント
3	青年期の発達課題と阻害事例研究と対応	衝動的、攻撃的な人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
4	対応の難しいパーソナリティの事例研究と対応	抑うつ傾向にある人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
5	対応の難しいパーソナリティの事例研究と対応	神経症的不安傾向にある人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
6	抑うつ傾向にある人の事例研究と対応	不登校のタイプと不登校のタイプ別事例	プリント
7	神経症的不安傾向にある人の事例研究と対応	不登校のタイプ別事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
8	心身症保持者の事例研究と対応	引きこもりタイプとタイプ別事例	プリント
9	不登校児の事例研究と対応	引きこもりタイプ面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
10	引きこもりの事例研究と対応	行動症状を持つ人への事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
11	行動症状を持つ人への事例研究と対応	拒食症や過食症の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
12	摂食障害の事例研究と対応	親子関係が引きがねとなる問題を持つ人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
13	障害者の心の問題の事例研究と対応	障害別タイプと事例	プリント
14	障害児・者を持つ家族に起こる問題	障害別タイプと事例	プリント
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等
私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	10　%
レポート	□有り □無し	10　%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）	出席重視	30　%

教科書・参考書及び辞典等〔テキスト〕
〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、2001
ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　2004

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	47－13	授業科目名	カウンセリング演習Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
カウンセリング実務士資格	必修科目	3	後期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻

授業のテーマ・概要

人生や進路に迷ったり、人間関係や恋愛などで悩んだりした時、自分本来の欲求や感情そのままに生きることを阻むため生じる感情である。カウンセリングはこのような矛盾する感情を少なくし、本来の自分の感情や欲求に添うよう支援し、より良い人間関係を構築し、人格成長を促すことができるように援助する。

授業の目的・到達目標

各人の「人格成長」を促すことができようにカウンセリングの基本的姿勢とソーシャルスキルを身につけることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	問題別事例と併用療法（行動療法、遊戯療法、芸術療法、グループカウンセリング）	プリント
2	基本姿勢 1	言語の観察法、非言語的観察法と内部的観察法	プリント
3	基本姿勢 2	傾聴とブロッキング、確認	プリント
4	基本姿勢 3	共感的関わりと二重意思論	プリント
5	心理パターン論	心傷の構図、世代間伝達	プリント
6	発達課題と阻害因	ライフステージにおける発達課題と阻害因	プリント
7	ストレス源と防衛機制	ストレスに対する反応	プリント
8	精神分析療法	さまざまな治療モデル	プリント
9	夢分析	「今、ここで」のドリームワーク	プリント
10	クライエント中心療法	カウンセリングの基本とは	プリント
11	交流分析	交流パターンの分析	プリント
12	イメージ療法	イメージ療法の理論	プリント
13	認知行動療法	認知行動療法のアプローチ	プリント
14	サイコドラマ	サイコドラマとオムニバスサイコドラマ	プリント
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		100　%
その他（出席状況等）	出席重視	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、2001
ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　2004

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	47－14	授業科目名	カウンセリング実習	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
カウンセリング実務士資格	必修科目	4	前期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻

授業のテーマ・概要

実際に多くの事例を中心にカウンセリングを体験し、いろいろな問題を持つ人達へのカウンセリングの経験を積んでいきながらカウンセリングを必要とする人達へのスキルはどうあるべきかを学んでいく。

授業の目的・到達目標

どのような問題を提示されても対応できるカウンセリングスキルを身につけていくことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	自己カウンセリング	チェックリスト作成	プリント
2	自己カウンセリング	チェックリスト作成	プリント
3	ロールプレイ	他者チェックリスト作成	プリント
4	シート作成とカウンセリング	ストレスマネージメントのシート作成と応用	プリント
5	シート作成とカウンセリング	自己イメージ連想のシート作成と応用	プリント
6	シート作成とカウンセリング	生活変容のためのシート作成と応用	プリント
7	シート作成とカウンセリング	色彩イメージによるシート作成と応用	プリント
8	シート作成とカウンセリング	自己成長のためのシート作成と応用	プリント
9	心の問題を持つ人	ロールプレイ	プリント
10	虐待を受けた人	ロールプレイ	プリント
11	不登校児	ロールプレイ	プリント
12	摂食障害 1	ロールプレイ	プリント
13	摂食障害 2	ロールプレイ	プリント
14	引きこもり	ロールプレイ	プリント
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	0　%
レポート	□有り □無し	0　%
試　　験		70　%
その他（出席状況等）	出席重視	30　%

教科書・参考書及び辞典等〔テキスト〕

〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、2001

ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　2004

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011

授業科目コード	48－1	授業科目名	現代子育て論	担当教員名	水田聖一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	必修科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

子どもたちを産み育てるという何千年も続いてきた営みが、今危機にさらされている。虐待やネグレクトなどの様々な問題から子どもたちを守るために何が必要か、子どもたちのためにどのようにことが行われるべきかを考察する。幼稚園や保育所での実践等も紹介する。

授業の目的・到達目標

子どもの「学びの特徴」を理解しながら、「発達段階に即した」援助のあり方を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	序論	子どもを育てるとは	テキストに準じる
2	保育内容	保育内容の基本構造	〃
3		保育内容の変遷	〃
4		保育内容の「統合性」	〃
5		保育内容の構成	〃
6		子育ての伝承から学ぶ	〃
7	保育方法	保育の展開と保育方法	〃
8		保育の展開と保育者	〃
9		遊びの展開過程に関わる保育者の役割	〃
10		保育内容と計画	〃
11	発達	子どもの発達と生活	〃
12		子どもの育ちと保育内容	〃
13		現代の子育ての現状	〃
14		これからの子育ての課題	〃
15		全体の理解度の確認と授業総括	〃
	(試験)	行う	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。**ノートを毎回提出する。**

教科書を購入しないものには、単位は与えられない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30　%
試　験	試験期間に試験を実施する。	50　%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**(1 回欠席すると 5 点減点)	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

生田貞子・水田聖一編『保育実践を支える保育内容総論』福村出版

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	48－4	授業科目名	生活と社会保障	担当教員名	楳原　直美（うめはら　なおみ）

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

社会保障は我々の生きる権利・生活する権利（生存権）を保障する重要な役割を担っている。その果たす役割や仕組みを理解し、社会保障のシステムの問題点や課題について講義する。

授業の目的・到達目標

社会保障のシステムは何らかの生活上の問題が発生しなければ見えにくいが、我々の生活に重要な役割を果たしている。私たちとシステムの関係を理解し、身近なものであることに気づく、そして社会保障や社会福祉の今後の課題を学生自身が考えていく。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明。	随時プリント配布
2	社会保障制度とは	ライフサイクルと生活保障の理解	
3	社会保険制度	社会保険制度の仕組みを理解する。	
4	医療保険制度①	医療保険制度のしくみ	
5	医療保険制度②	医療保険制度と公費負担医療	
6	年金保険制度①	年金保険制度のしくみ	
7	年金保険制度②	年金保険制度の課題	
8	公的扶助	生活保護制度のしくみ	
9	雇用保険制度	雇用保険制度のしくみ	
10	労災保険制度	労災保険制度のしくみ	
11	高齢化と介護保険制度	介護保健制度のしくみ	
12	少子化と社会保障①	少子化対策	
13	少子化と社会保障②	子育て支援制度	
14	社会福祉基礎構造改革	少子高齢社会と今後の社会保障制度の課題	
15	まとめ	まとめ	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

私語が多いものは退出させる場合もあります。
退出を言われたものは欠席扱いとします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	学期末に持ち込みなしの試験を実施。内容・形式については、授業の中で説明する。	70　%
その他（出席状況等）	出席点　授業態度	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリント配布
〔参考書・その他〕
授業内で提示

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	48－5	授業科目名	地域福祉論	担当教員名	後藤　登美子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

地域ではさまざまな生活・福祉問題が起きている。そうしたなかで、地域住民を含めたさまざまな地域福祉活動が行われている。本講義では地域福祉活動の実践を紹介しながら、地域福祉の基本的な事柄について講義する。

授業の目的・到達目標

地域福祉の思想を理解する。また、地域福祉活動の実践から地域福祉が求められる社会的背景を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義オリエンテーション		
2	地域福祉の概念と範囲①	地域福祉の基本的な考え方について説明	
3	地域福祉の概念と範囲②		
4	地域福祉の主体と対象①	公的機関・民間機関の役割を学ぶ	
5	地域福祉の主体と対象②	地域福祉の活動内容について学ぶ	
6	地域福祉の展開	社会福祉法を中心に説明する	
7	行政組織と民間組織の役割と実際①	地域における相談窓口について学ぶ	
8	行政組織と民間組織の役割と実際②	社会福祉法人・ＮＰＯ団体を中心に学ぶ	
9	行政組織と民間組織の役割と実際③	社会福祉協議会について学ぶ	
10	行政組織と民間組織の役割と実際④	ボランティア活動について学ぶ	
11	事例検討①	2 コマ使い、事例検討を行う	
12	事例検討②	同上	
13	事例検討の発表	自身の考えた意見を発表し意見交換を行う	
14	地域福祉の推進方法①	ケアマネジメントの必要性について説明する	
15	地域福祉の推進方法②	地域における福祉ニーズの把握方法について説明する	
	（試験）		

履修上の注意・関連科目等

出席に関しては厳しく取るので、遅刻や欠席をしないこと。
日頃から新聞記事に目を通し、日常生活の中の具体例と関連づけて、学習を深めることを求める。
講義中に演習を行い事例検討を行う。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　課題レポートの提出を求める。事例検討の発表を行う □無し	20%
試　　験		40%
その他（出席状況等）	内訳（出席状況 20%・授業態度 20%）	40%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
テキストは使用しない。授業内でレジメを配布する
〔参考書・その他〕　適宜紹介する。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

授業科目コード	48－8	授業科目名	ユニバーサルデザイン論	担当教員名	大河内 雅司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ユニバーサルデザイン（以下、UD）とはなにか？その概念を学ぶと共に、バリア（障壁）の体験や小グループでの意見交換・発表などにより、UDを自らの問題として学ぶことを支援します。

授業の目的・到達目標

UDについて学ぶことを通じて、自分なりの視点や問題意識を持つことを目標とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　全体説明	全体課題及び各回の内容について説明します。	講師作成資料
2	受講生のUD度ﾁｪｯｸ	受講生の「UD度」をチェックします。	〃
3	キャンパス内の疑似体験	キャンパス内で疑似体験を行い、体でバリアを感じてもらいます。感想をみんなで共有します。	学内の車いすを使用
4	UDの理解（その1）	UDの概念や事例を紹介します。	パワーポイントを使用
5	障害種別とバリアの理解（その1）	障がい者とは？バリアとは？障がい者の概要と生活課題について説明します。 当事者によるミニ講演を予定しています。	講師作成資料
6	障害種別とバリアの理解（その2）	当事者によるミニ講演を予定しています。 「まちのUD探し」の課題を出します	講師作成資料
7	まちのUD探し（その1）	まちのUD事例を自分の視点で探し、レポートにまとめます。	自主学習
8	UDの理解（その2）	UDの背景として、福祉のまちづくり条例やバリアフリー新法などの法制度について説明します。	パワーポイントを使用
9	まちのUD探し（その2）	まちのUD探しのレポートを発表し、成果を共有します。	学生の発表
10	UDと社会福祉政策	UDを時代背景や社会福祉政策の動向から俯瞰してみます。	講師作成資料
11	UDにおける住民参加の学習（その1）	UDにおける住民参加について、事例（交通バリアフリーなど）をもとに説明します。	パワーポイント、ビデオを使用
12	UDにおける住民参加の学習（その2）	UDにおける住民参加について、事例（地域福祉計画など）をもとに説明します。	〃
13	キャンパスのUD(その1)	キャンパスのバリアフリーについて、事例を基に理解を進めます。	講師作成資料
14	キャンパスのUD(その2)	UDの視点で羽衣大学キャンパスのバリアフリー調査を行います。	パワーポイント、ビデオを使用
15	キャンパスのUD(その3)	キャンパスのバリアフリーについて調査報告、提案を行います。	〃
	（試験）	試験を行います。	

履修上の注意・関連科目等

「まちのUD探し」は必ずレポートを提出すること。意見交換や発表では、グループワークを行うこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り　■なし	
レポート	■有り　□なし　自分の視点でまちのUDを探し、レポートにまとめる。	25　%
試　　験	授業最終日に試験を実施する。	25　%
その他（出席状況等）	出席状況と講義の中での発表を評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔参考書・その他〕　梶本久夫編著「ユニバーサルデザインの考え方」　丸善
　川内美彦「ユニバーサルデザインーバリアフリーへの問いかけ」「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」　学芸出版社　など

電子メールのアドレス

作成年度：2013

授業科目コード	48－9	授業科目名	商品論	担当教員名	國廣 英司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ブランドの形成

授業の目的・到達目標

商品ブランドとは、どのように形成されるか。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料）
1	ブランドについて	世界のブランドについて解説	
2	〃		
3	〃		
4	〃		
5	ルイ・ヴィトンの戦略	ルイ・ヴィトンは何故人気があるのか	
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	ブランドはどのように形成されるか		
12	〃		
13	〃		
14	あなたならどのようなブランド戦略		
15	をするのか		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	70 %
試　　験	無し	%
その他（出席状況等）		30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
ルイ・ヴィトンの法則
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	48－11	授業科目名	流行と消費者行動	担当教員名	平岡 隆一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメントコース

授業のテーマ・概要

流行すなわち「商品のサイクル」を理解し、世界の動き・経済環境・商品の動向・消費者の動きなどの市場動向を調査・分析する。

授業の目的・到達目標

①流行のサイクルを理解し判断することが出来るようになれる
②消費者の価値観の動向・変化を理解できる
③1 人の消費者として「商品」を見極める目を養うことが出来るようになれる

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方・目的について	講義の内容・進め方などの説明	
2	商品のライフサイクルとマーケットイン	ファッションサイクルについて	資料配布
3		スパイラル状に変化するサイクルについて	
4		マーケットインの対応について	
5	進化するファッション意識	マズローの欲求 5 段階説について	資料配布
6		消費とビジネスの変遷	
7		10 人 1 色から 1 人 1 色、1 人 10 色へ	
8		20 世紀後半の生活文化史について	
9	今日のマーケティング戦略	マーケティングとは	資料配布
10		ターゲット設定とコンセプトについて	
11		マーケティングの 3C・4C とは	
12	欠かせない市場情報の収集と分析	マーケティングリサーチについて	資料配布
13		消費者動向調査とは	
14		調査データの分析と活用の仕方	
15	まとめ		
	(レポート提出)		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	70 %
試　　験		%
その他（出席状況等）		30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2007

授業科目コード	49－1	授業科目名	健康科学 子どもの健康	担当教員名	水田聖一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	必修科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

子どもを取り巻く環境が大きく変化している現在、子どもの心身における健康の保持と増進は大きな課題となっている。健康領域を身体のありかた面からと心の働きとしてのしなやかさの面から考察する。

授業の目的・到達目標

健康を「強さ(運動量)」、「動きの多様性」、「(心と体の)しなやかさ」という三つのキーワードから理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1		乳幼児と健康	テキストに準じる
2		乳幼児の発達と健康	〃
3		自ら生き生きと動く子どもを育てる	〃
4		生きる力の基礎としての体を育てる	〃
5		健康と自立	〃
6		安全に生きる力を育てる	〃
7		領域「健康」の指導計画	〃
8		行事と健康	〃
9		健康管理	〃
10		幼児と性	〃
11		身体の動きとしての強さ	〃
12		動きの多様性	〃
13		動きのしなやかさ	〃
14		心の働きとしてのしなやかさ	〃
15		全体の理解度の確認と授業総括	〃
	(試験)	行う	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。**ノートを毎回提出する。**

教科書を購入しないものには、単位は与えられない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り　　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30　%
試　　験	試験期間に試験を実施する。	50　%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**(1 回欠席すると 5 点減点)	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

河邉 貴子、杉原 隆、 柴崎 正行『保育内容「健康」 (最新保育講座)』ミネルヴァ書房

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	49－3	授業科目名	介護概論	担当教員名	渋谷光美

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

介護における尊厳の保持・自立支援について理解する。

授業の目的・到達目標

介護福祉を取り巻く状況・介護福祉の役割・介護福祉の機能について理解出来る。
尊厳の保持・自立支援を目指す介護実践の在り方について理解出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護問題の背景	介護福祉の役割	
2	介護福祉の目的	自立支援とエンパワメント	
3	ICF の理解	生活支援への応用	
4	援助関係の基本	ケアマネジメントの実際	
5	身辺介護の技法①	環境整備(住環境の整備)	
6	身辺介護の技法②	食事の介護(食生活支援)	
7	身辺介護の技法③	排泄の介護(排泄用具の工夫)	
8	身辺介護の技法④	清潔の介護(清拭・整容・入浴)	
9	身辺介護の技法⑤	着脱の介護(衣生活支援)	
10	身辺介護の技法⑥	運動・移動の介護(アクティビティケア)	
11	身辺介護の技法⑦	運動・移動の介護(福祉機器の活用)	
12	身辺介護の技法⑧	生きがい支援・レクリエーション	
13	チームケア	介護とリハビリテーション	
14	介護と医療の連携	ターミナルケア	
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□㊒り □無し	15 %
レポート	□㊒り □無し	15 %
試　　験	全体の理解度の確認の際に実施	60 %
その他（出席状況等）	出席状況と授業参加態度	10 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
松田美智子他編著：高齢者介護のコツ　クリエイツかもがわ
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2012

授業科目コード	49－4	授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	鶴保謙四郎

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

健康寿命を如何にして延伸するのか。そのためにはどの様な知識・行動が必要で、それを支える社会システムを理解させる。

授業の目的・到達目標

公衆衛生学は社会の組織的な活動によって疾病を予防し、精神的、肉体的健康を維持増進することを目的とした社会医学である。そこでその基礎的知識を習得し、自らの生活を見直すことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	新聞の中の関連記事を読んでくること	
2	疫学・保健統計	疾病の分布と発生要因	テキスト第 2、3 章
3	疾病予防と健康	感染症・生活習慣病	テキスト第 4 章
4	主な疾病と予防	疾病予防方法	テキスト第 5 章
5	地域保健	生活圏における保健	テキスト第 7 章
6	母子保健	出生・母子・子育て	テキスト第 8 章
7	学校保健	学校における衛生保健	テキスト第 9 章
8	産業保健	職場環境と健康	テキスト第 10 章
9	老人保健・福祉	加齢・老化・高齢化・老人福祉	テキスト第 11 章
10	国際保健	人種・民族・途上国と健康	テキスト第 13 章
11	環境保健	生態系と健康の保持	テキスト第 6 章
12	公害と環境､健康被害	水俣病・四日市喘息・アスベスト	テキスト第 6 章の一部
13	インフルエンザ	人類とインフエンザウイルスの関わり	テキスト第 5 章の一部
14	水道と衛生	水道の歴史と衛生	テキスト第 6 章の一部
15	まとめ	生活を取り巻くリスクへの考え方	
	(試験)	全体の理解度の確認	

履修上の注意・関連科目等

私語及び携帯電話等厳禁。途中入室・退出を慎むこと。
出席回数は、全体の 2/3(10 回)以上を基本とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	0 %
レポート	☑有り　課題は授業中に示す。 □無し	20 %
試　験	実施する。内容・形式等は授業の中で示す。	40 %
その他（出席状況等）	受講態度を評価する。	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
シンプル衛生公衆衛生学 2012、辻・小山編集、南江堂、2400 円＋税
〔参考書・その他〕
厚生労働省、環境省等の HP

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	49－5	授業科目名	ライフスタイルと健康	担当教員名	西口初江

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	必修科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間の生命および健康生活は急激な社会環境の変化にともない健康問題の様相も大きく変化している。人間の日常の行動や行動形式（ライフスタイル）が健康レベルに影響を与えることが明らかになっている。個人の健康を身体的・精神的・社会的な調和を考慮した健康保持・健康づくりについて講義する。

授業の目的・到達目標

人間の一生（ライフサイクル）から発育・発達と健康に関する知識や現代社会の生活環境，社会問題等について理解し、生涯にわたり健康を保持・増進（健康づくり）することを理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	健康について	健康の定義	
2		ライフサイクルにおける健康上の課題	
3		各発達段階、発達課題	
4	〃	生活習慣病	
5	〃	健康的な食生活	
6	〃	わが国の食生活の現状　食行動の変化	
7	〃	日常生活活動、運動習慣、適正体重	
8		睡眠について、睡眠障害	
9	こころの健康	ストレス、心身症、こころの不調	
10	ライフステージと健康〃	家族計画、妊娠の成立、避妊法、基礎体温法	
11	〃	思春期・青年期、壮年期、高齢期	
12	〃	高齢者を取り巻く社会、保健、医療、福祉	
13		レポート発表	
14	環境と健康	感染症、感染症法、結核、性感染症、	
15		食中毒、地球環境問題、ノーマライゼーション	
	(試験)	全体の総まとめ	

履修上の注意・関連科目等

出席重視。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義のなかで健康に関するテーマを考え、レポートを作成し、発表を行う。 □無し	25　%
試　　験	筆記試験	60　%
その他（出席状況等）	出席状況や授業態度を総合的に評価。講義中の遅刻途中退室、入室は慎む。	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕成　和子編　改訂『ライフスキルのための健康科学』第２版　建帛社
〔参考書・その他〕国民衛生の動向、公衆衛生マニュアル、資料は適宜配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	49－6	授業科目名	スポーツと健康	担当教員名	岡崎 和伸

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

加齢に伴う身体の変化に対応して、生涯にわたって健康を維持増進するためにはどんな運動をどれくらい実施すれば良いのか、また、ヘルスプロモーションの基本的な考え方、健康運動機器の適切な使用方法、スポーツ活動における安全管理などを中心に講義をする。

授業の目的・到達目標

加齢に伴って自身の身体に起こる変化を通して、健康の維持増進のための運動の重要性を理解する。また、生涯にわたって健康的な生活・運動習慣を構築する基礎を習得し、健康運動プログラムを作成できるようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	健康とは？	プリント配布等
2	生活習慣病①	生活習慣病　概論	〃
3	生活習慣病②	生活習慣病　肥満症	〃
4	生活習慣病③	生活習慣病　高血圧症	〃
5	運動基準	健康づくりのための運動基準	〃
6	運動指針	健康づくりのための運動指針	〃
7	健康のための運動①	持久性トレーニングの方法	〃
8	健康のための運動②	持久性トレーニングの効果	〃
9	健康のための運動③	筋力トレーニングの方法・効果	〃
10	安全管理	スポーツ活動における安全管理	〃
11	運動プログラム①	健康運動プログラム　基礎	〃
12	運動プログラム②	健康運動プログラム　実例	〃
13	運動プログラム③	体力測定　基礎	〃
14	運動プログラム④	健康運動プログラム　注意事項	〃
15	運動プログラム⑤	健康運動プログラム　作成	
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入退出を慎むこと。場合によっては出席と認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	20　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		50　%
その他（出席状況等）		30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	49－7	授業科目名	栄養と健康	担当教員名	野口　聡子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

食事は，健康に毎日を過ごすうえで，大切な要因である．本講義では，食品に含まれる栄養素の機能や，消化・吸収について学び，さらに各ライフステージの栄養学的特徴を講義する．

授業の目的・到達目標

身体の構造と機能，食品に含まれる各栄養素がどのように体内で処理され，どのような働きがあるかを理解し，健康の維持・増進，疾病を予防するにはどのような食べ物をどのように摂取することが望ましいかを学ぶ．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業について	
2	食事と栄養について	食事バランスガイドについて	テキスト，プリント
3	食品に含まれる栄養素	炭水化物について	テキスト，プリント
4	食品に含まれる栄養素	脂質について	テキスト，プリント
5	食品に含まれる栄養素	たんぱく質について	テキスト，プリント
6	食品に含まれる栄養素	水溶性ビタミンについて	テキスト，プリント
7	食品に含まれる栄養素	脂溶性ビタミン・ミネラルについて	テキスト，プリント
8	ライフステージと栄養	胎児期・妊娠授乳期の栄養	テキスト，プリント
9	ライフステージと栄養	成長期の栄養	テキスト，プリント
10	ライフステージと栄養	成人期，高齢期の栄養	テキスト，プリント
11	健康と栄養	ダイエットについて	テキスト，プリント
12	健康と栄養	スポーツと栄養について	テキスト，プリント
13	健康と栄養	生活習慣病について①	テキスト，プリント
14	健康と栄養	生活習慣病について②	テキスト，プリント
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	40　%
試　　験		30　%
その他（出席状況等）	出席、授業態度、発表	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

香川靖雄著　『やさしい栄養学　第2版』女子栄養大学出版部

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	49－8	授業科目名	応用クッキング	担当教員名	髙谷 小夜子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活習慣病予防の観点からも見直されている日本型食生活の基盤となる和食を中心とした実習を行う。身近な食材について、より理解が深まるように説明する。学生自身が調べてきたことを人前で分かり易く説明できるように指導する。

授業の目的・到達目標

季節の食材を使用しての献立や行事食について理解する。食卓の演出や食器の選び方、食事のマナーを学ぶ。食材や食生活についてのレポートを作成し、発表する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方	実習班の決定、実習内容、レポート作成につて	プリント
2	小麦粉の調理	イーストの発酵・ゼラチンのゼリー	教科書・プリント
3	敬老の日の献立	赤飯、ホイル蒸し、いも羊羹	
4	肉の調理	ポークピカタ、クリームスープ	
5	中国料理	乾焼蝦仁、麻婆豆腐	
6	秋の献立	芋ご飯、きのこ料理	
7	中国風おこわ	炊き込みおこわ、中華まん、	
8	香辛料を使って	ターメリックライス、ドライカレー	
9	寿司二種	巻きずし、いなりずし	
10	簡単なコース料理	オードブル、スープ、肉料理、デザート	
11	正月料理 1	祝い肴三種、関西風雑煮	
12	正月料理 2	栗きんとん、昆布巻き、松風焼き、雑煮	
13	ひな祭りの献立	寿司、うしお汁、桜餅	
14	簡単なおやつ作り	ホットケーキミックスを使って	
15	献立の発表と清掃	作成献立の発表、実習室の衛生管理	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

授業開始時刻の厳守、実習にふさわしい服装と清潔なエプロン、三角巾の着用
レポート等提出物の期日の厳守

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	40　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席を重視、実習中の態度、服装	60　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕「調理学実習」　大谷貴美子・饗庭照美編　　講談社菜園ティフィック　　2940 円
〔参考書・その他〕「プロ仕込み　包丁テクニック図解」　（株）大泉書店　　1575 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	49−9	授業科目名	ケーキ&ブレッド	担当教員名	比嘉 悠司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

お菓子作りの楽しさ

授業の目的・到達目標

お菓子作りを通して、素材の特性を知る

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	授業の進め方・シュークリーム	講義の進め方などを説明・シュークリームの実習	
2	ショートケーキ/クレーム・ブリュレ	ショートケーキ/クレーム・ブリュレの実習	
3	スフレのチーズケーキ/バタークッキー	スフレチーズケーキ/バタークッキーの実習	
4	シャルロット・フレーズ	シャルロット・フレーズの実習/タルト生地仕込み（翌週分）	
5	タルト・ショコラ	タルト・ショコラ実習/パイ生地仕込み（翌週分）	
6	アップルパイ/苺のミルフィーユ	アップルパイ/苺のミルフィーユの実習	
7	クレープのデザート/絞りクッキー	クレープのデザート/絞りクッキーの実習	
8	杏仁豆腐/クグロフ	杏仁豆腐/クグロフの実習	
9	桃のババロア	桃のババロアの実習/チーズサブレの仕込み（翌週分）	
10	カッテージチーズケーキ/グレープフルーツゼリー&マンゴムース	カッテージチーズケーキ/グレープフルーツ&マンゴムースの実習	
11	トリュフチョコレート/マドレーヌ	トリュフチョコレート/マドレーヌの実習/ビッシュドノエルの仕込み（翌週分）	
12	ビッシュドノエル	ビッシュドノエルの実習	
13	ピエス・モンテ	食材を使い、オブジェ作りのデモンストレーション	
14	実習の見直し	実習の反省とアドバイス	
15	実習内容のまとめ		

履修上の注意・関連科目等

積極的に授業に参加しない者の受講は認めない。私語および途中入室、途中退出は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	30 %
その他（出席状況等）	出席を重視する。	70 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	49－10	授業科目名	レクリエーション論	担当教員名	今西 香寿

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

レクリエーションとは何か、レクリエーションの必要性など、レクリエーションの理念と実践について講義をする。

授業の目的・到達目標

レクリエーション支援者としての基礎的知識を習得し、楽しいを原動力としたレクリエーション事業についての理解を深め、レクリエーションが生きる喜びにつながることを知る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の概要・進め方などを説明	
2	レクリエーションの基礎理論	レクリエーションとは何かを講義する	プリント
3	レクリエーションの理解とレクリエーション運動の歴史	レクリエーション運動の歴史について講義をする。	プリント
4	ライフスタイルとレクリエーション	生活におけるレクリエーションについて講義をする。	プリント
5	ホスピタリティ・トレーニング①	対象者との良好な関係を築くための姿勢について講義をする	
6	ホスピタリティ・トレーニング②	対象者との良好な関係を築くための態度について講義をする。	
7	ホスピタリティ・トレーニング③	対象者との良好な関係を築くための行動について講義をする。	
8	ライフステージごとのレクリエーション支援①	高齢化社会や少子化社会の課題とレクリエーションについて講義をする。	教科書 P70～141
9	ライフステージごとのレクリエーション支援②	高齢化社会や少子化社会の課題とレクリエーションについて講義をする。	教科書 P70～141
10	地域とレクリエーション	地域の課題とレクリエーションについて講義をする。	教科書 P142～160
11	レクリエーション事業とは	レクリエーション事業の考え方・事業の企画について講義をする。	教科書 P162～207
12	レクリエーションプログラムと安全	安全管理の基本について講義をする。	教科書 P208～223
13	レクリエーションプログラムの企画①	企画から準備・実施・評価までの一連のプロセスを講義をする。	教科書 P196～207
14	レクリエーションプログラムの企画②	企画から準備・実施・評価までの一連のプロセスを講義をする。	教科書 P196～207
15	レクリエーションプログラムの評価	企画から準備・実施・評価までの一連のプロセスを講義をする。	教科書 P196～207
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

内容に応じて、グループワークやディスカッションを取り入れながら授業を行う。何事においても主体的に、積極的に取り組むこと。教科書を持参しない者、積極的に授業に参加しない者の受講は認めない。私語の多いものは退出させる場合もある。途中入室、途中退出は厳に慎むこと。
資格取得単位（レクリエーション・インストラクター）該当授業のため、全日程出席を原則とします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□無し	%
レポート	□有り	10 %
試　　験	内容・形式等については、授業の中で説明する。	40 %
その他（出席状況等）	出席・授業参加度（発表等）を重視する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　レクリエーション支援の基礎　楽しさ・心地よさを活かす理論と実技

作成年度：2013

授業科目コード	50－1	授業科目名	近代デザイン論	担当教員名	今井　美樹

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

20 世紀のデザインを知る／「もののかたち」の変遷

授業の目的・到達目標

身の回りのさまざまな〈もののかたち〉には、機能的な理由の他に、時代の要請や流行、美術運動との関連、技術や素材による制約などが反映されている。本講義では、19 世紀末以降、「デザイン」として発達してきた〈もののかたち〉の変遷を広く知ることにより、国や時代によって異なる「デザイン」に対する多様な捉え方を理解し、21 世紀に展開されるべき「デザイン」の可能性を考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義概要とスケジュール	◎スライドによる講義 ◎プリントを配布
2	1990 年代:デザインの現状	デジタルメディアとデザイン	
3	1950～80 年代：価値の多様化	戦後のアメリカと日本	
4		戦後のヨーロッパ	
5	1910～40 年代： デザインのモダニズム	アール・デコ	
6		大戦間のモダニズム（1）	
7		大戦間のモダニズム（2）	
8	1860～1900 年代： デザインの誕生	アール・ヌーヴォー	
9		アーツ＆クラフツ運動	
10		デザインの工業化・量産化	
11	通　史	（1）日本のデザイン	
12		（2）椅子のデザイン	
13		（3）ポスターのデザイン	
14		（3）子供とデザイン	
15	まとめ		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

20 世紀の大まかな世界史・日本史を把握しておくこと。
私語や途中入退室を禁止する。講義開始後 20 分以上の遅刻は欠席とする。
講義中の注意を守らない者には退出を命じる。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　出席票に代わる小レポートを毎回実施する □無し	40　%
試　　験	実施する（試験時間 50 分）	40　%
その他（出席状況等）	出席状況(小レポート)と自主的な授業態度を評価する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しないが『世界デザイン史』(美術出版社)をもとに講義をおこなう
〔参考書・その他〕
講義中に適宜、参考となる書籍、番組、展覧会などを紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	

作成年度：2012

授業科目コード	50－2	授業科目名	生活造形論	担当教員名	横田 哲(ﾖｺﾀ ｻﾄｼ)

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活の中で衣と食と住を中心に室内環境、生活道具、生活スタイルをデザイン様式などの時間軸や、日本と西洋などの風土、文化軸から考察し 21 世紀の生活造形のあり方を考える。

授業の目的・到達目標

生活空間,生活道具は文明の発展とともに進化し,また風土や民族性によってさまざまな文化様式が生まれ多様な生活環境がつくられてきた。しかしながら現代は工業化,情報化,国際化を背景に無国籍化が進んでいる。本講は主体的な生活者の立場から,これまでの生活空間、生活ツールの流れを知った上で、21 世紀の世界的課題である環境問題とわが国の高齢化の進展への対応を考えた上で、あふれる生活ツール、情報群を適格に考察し,生活環境における問題解決を実践するための基礎的な知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	生活造形とは何か	生活者、生活空間、生活ツールの意味と時代背景	プリント、パワーポイント（以下同じ）
2	環境と生活造形 1	エクステリアにみる造形要素	
3	環境と生活造形 2	インテリアにみる造形要素	
4	住まいと生活造形 1	住生活で変わっていくもの変わらないもの	
5	住まいと生活造形 2	家具と住戸の収納計画	
6	住まいと生活造形 3	住まいの間取りの変遷	
7	家事と生活造形	洗濯掃除・手入れ・修理に求められる空間と機器・ツール	
8	身だしなみと生活造形	身だしなみに必要な空間と機器・ツールの変遷とかたち	
9	「食する」と生活造形 1	調理する空間と食べる空間	
10	「食する」と生活造形 2	調理する道具と食べる道具	
11	「学ぶ」と生活造形	学ぶ行動に求められる空間と機器・ツール	
12	「移動」と生活造形	交通手段の変遷と造形	
13	「通信」と生活造形	通信手段の変遷と機器	
14	「ｴｺﾛｼﾞｰ」と生活造形	ｴｺﾛｼﾞｰの意味、ｴｺﾛｼﾞｰの観点で注目されるもの	
15	ユニバーサルデザイン	概念の成立過程とその必要性	
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

受講態度、質問力を評価する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	プリント及びパワーポイントで学んだ事柄や考え方の理解度の確認	50 %
その他（出席状況等）	授業態度及び出席状況	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	50－3	授業科目名	生活造形実習Ⅰ	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

インテリアやファッションばかりではなく、プロダクト分野のデザインにおいても重視されている色や形で製品のイメージアップを図る能力を培う。

授業の目的・到達目標

①造形的に優れた表現力を身につけるために、代表的な表現方法を習得する。
②創意工夫を凝らし、デザインのヒントにする造形物の美点を探究する姿勢を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・制作準備	
2	カラーイメージⅠ	モザイク模様の制作指導	
3	カラーイメージⅡ	データファイルの作成指導	
4	パーソナルカラー	好きな色と似合う色について調査	
5	ペーパーデザイン	コンポジションとパターン抽出の指導	
6	捺染（プリント）Ⅰ	デザインの指導	
7	捺染（プリント）Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
8	捺染（プリント）Ⅲ	彩色の指導	
9	浸染Ⅰ	デザインの指導	
10	浸染Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
11	浸染Ⅲ	彩色の指導	
12	応用染色Ⅰ	デザイン指導	
13	応用染色Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
14	応用染色Ⅲ	彩色の指導	
15	仕上げ	染色作品の縫製・アイロン作業	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとに提出した完成作品・出席状況・受講態度を評価する。	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	50－4	授業科目名	生活造形実習Ⅱ	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ファッションやインテリア製品のフレキシブルな素材の代表として重宝に用いられている織物の構成を糸の段階から学び、布の風合や色や柄（模様）の理解を深め、各自のイメージに応じた実用品を製作する。

授業の目的・到達目標

視覚および触覚的に素材の質感を知ることでイメージを膨らませ、デザインと製作の試行錯誤を繰り返しながら創意工夫を凝らし、造形的能力を高める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・制作準備	
2	機の原理Ⅰ	整経、綜絖通しについて説明	
3	機の原理Ⅱ	筬通し、経糸巻きについて説明	
4	機の原理Ⅲ	糸染め、杼の準備指導	
5	機の原理Ⅳ	製織の指導	
6	機の原理Ⅴ	布巻き、仕上げ、織見本の制作を指導	
7	作品企画	作品のデザインと縫製手順の計画	
8	縫製準備	型紙製作と生地の裁断ほか	
9	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
10	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
11	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
12	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
13	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
14	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる作品の組立て	
15	仕上げ工程	糸の始末やアイロン作業など	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとに提出した完成作品・出席状況・受講態度を評価する。	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	50－5	授業科目名	カラーコーディネート論	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

システム化された表色系と心理・生理・社会・光学などの分野と深く関わる色の見えの現象の理解を深めた上で、色彩調和のための配色や色彩構成の理論について講義する。

授業の目的・到達目標

複数の色を目的に応じて秩序付け調和させ美しく快適な生活環境を生み出す能力を培うために、背景にある諸問題を認識しながら色彩体系や色彩調和論を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	色を決める要素Ⅰ	光と照明	テキスト p.2,p.34~35,p.76~81
3	色を決める要素Ⅱ	光と物体色	テキスト p.2~4
4	色を決める要素Ⅲ	眼と色の見え方	テキスト p.4~5
5	色を決める要素Ⅳ	色の表示と測定	テキスト p.5~9
6	色を決める要素Ⅴ	色相記号とトーンの概念	テキスト p.10~19
7	色を決める要素Ⅵ	色覚理論と表色系	テキスト p.20~27
8	色の混合Ⅰ	加法混色	テキスト p.28~31
9	色の混合Ⅱ	減法混色	テキスト p.32~33
10	色彩の心理Ⅰ	色の見え・色彩感情	テキスト p.36~42
11	色彩の心理Ⅱ	色のイメージ・連想・象徴	テキスト p.43~47
12	色彩調和Ⅰ	色彩調和の原理	テキスト p.54~61,p.69
13	色彩調和Ⅱ	伝統的･習慣的配色技法	テキスト p.48~53,p.62,p.72~73
14	色彩調和論	色彩調和論	テキスト p.64~68
15	色彩計画	目的と対象のとらえ方・安全色彩	テキスト p70~73
	(試験)	実施する	

履修上の注意・関連科目等

①テキストはフルに活用するので、必ず持参すること。
②項目ごとに、内容の要約と理解度のチェックのための練習問題を実施する。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	テキストのみ持ち込み可	50　%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
大井義雄・川崎秀昭 『カラーコーディネーター入門　色彩　改訂版』　日本色研事業株式会社　2009 年発行　1,575 円
〔参考書・その他〕
財団法人日本色彩研究所 『カラーコーディネーターのための　色彩科学入門』　日本色研事業株式会社　2000 年発行　1,890 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	50－6	授業科目名	ドローイング	担当教員名	清水 尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

モノの美的イメージに着眼して選り分ける能力と、見出したデザインソースを図形によって他者に正しく伝える能力を培う。

授業の目的・到達目標

①対象とした様々なモノの存在感が他者にも同様に伝わるように、デッサンの基本技法を習得する。
②衣食住を中心とした様々な生活ツールの特徴となるフォルム描写、並びに質感や色調の表現力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・ラフスケッチ	
2	デッサンⅠ	目測の説明と描画	
3	デッサンⅡ	明暗法の説明と描画	
4	デッサンⅢ	奥行きの説明と描画	
5	デッサンⅣ	遠近法の説明と描画	
6	カラーシステムⅠ	三原色と混色の説明と描画	
7	カラーシステムⅡ	明度と彩度の説明と描画	
8	カラーシステムⅢ	イメージ表現の説明と描画	トーンの概念図
9	静物画	構図と配色	
10	ファッションドローイングⅠ	クロッキーの説明と描画	
11	ファッションドローイングⅡ	人体のプロポーションの説明と描画	ファッション雑誌
12	ファッションドローイングⅢ	着装のプロポーションの説明と描画	ファッション雑誌
13	カラーコーディネートⅠ	配色の説明と彩色	配色カード・work paper
14	カラーコーディネートⅡ	色彩分析の説明と彩色	配色カード・work paper
15	カラーコーディネートⅢ	アレンジメントの説明と描画や彩色	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとに提出した完成作品・出席状況・受講態度を評価する。	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕　必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	50−7	授業科目名	ファブリック構成実習	担当教員名	清水尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ファッションデザインコンテストに応募し衣裳を制作することになった学生と、その制作援助をする学生を対象として集中的に指導を行う。

授業の目的・到達目標

前例の無い衣裳を制作することにより、縫製手順や技術を習得しながら、体形と衣服構成の関係を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明・制作準備	
2	衣服の構成	型紙の製作説明	
3	仮縫い工程	仮縫い用布の裁断	
4	仮縫い工程	仮縫い用布の縫製	
5	仮縫い工程	仮縫い用布で仮縫い	
6	素材の選択	生地や構成部品の購入	
7	裁断工程	生地の裁断	
8	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
9	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
10	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
11	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
12	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
13	縫製工程	ミシン縫いと手縫いによる衣裳の組立て	
14	仕上げ工程	アイロン作業ほか	
15	着装	モデルの最終衣装合わせ	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

ファッションショーに出演する場合は、モデルの練習時間も考慮して計画的に作業を進める必要があり、間際に仕上がったり、まして未完成で出演を断念したりすることが無いように努力すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	授業項目ごとの作品完成度・出席状況・受講態度を評価する。	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

必要に応じて紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	50－8	授業科目名	住空間デザイン実習 空間デザイン実習	担当教員名	疋田 友一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本実習では、快適な住空間を創造する上で、インテリアデザインが果たす意義と役割を、実習を通して解説する。また、具体的空間におけるインテリア計画の実践的学習を通して、実際にインテリアの設計に関わる際に求められる基礎的技術や知識と感性を修得させながら、個性的な課題作品を発表させる。

授業の目的・到達目標

インテリア設計を行う際に、対象となる住宅の空間条件や住生活特性を理解した上でデザインの条件を提案し、実際に住空間計画としてデザイン提案が出来るようになる。また、種々の表現技術も習得でき、誰にも解りやすいビジュアルな形でのデザインプレゼンテーションが出来るようになる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	実習の概容、進め方と設計プロセスの説明	シラバス・テキスト
2	設計の進め方	部屋別インテリア設計の基本と計画の説明	テキスト
3	平面図の描き方	平面図の描き方と平面計画図の練習課題作成	テキスト・資料配付
4	設計課題の進め方	改造計画の概要説明と基本平面図の作成	テキスト・資料配付
5	平面計画の進め方	家族構成・コンセプトと平面計画のラフスケッチ	テキスト・資料配付
6	家具デザイン計画	家具デザイン計画の説明と平面計画図の作成	テキスト・資料配付
7	（第 2 週：続き）	家具計画の決定、平面計画図の完成	テキスト・資料配付
8	仕様書作成	室内仕上表及び家具などの材種・仕上げの決定	テキスト・資料配付
9	照明計画	照明計画の説明と天井伏図の作成	テキスト・資料配付
10	展開図・色彩計画	主要空間の展開図作成と着彩練習課題の作成	テキスト・資料配付
11	室内パース	室内パースの描き方の説明と作成開始	テキスト・資料配付
12	（第 2 週：続き）	室内パースの作成続行	
13	（第 3 週：続き）	室内パースの完成・着彩	
14	プレゼンテーション	プレゼンテーションボードの作成	
15	設計課題の発表	各自作品のデザインプレゼンテーション発表	
	(試験)	試験はなし。全ての設計課題作品提出で評価	

履修上の注意・関連科目等

インテリアデザインは、住み手の住生活や家族生活にマッチした独創性の高い提案が求められることになる。オリジナリティに富んだ個性的デザインが提案出来るよう、優れたインテリアデザインの実例を沢山体験し、自分のデザイン感性の啓発に心がけること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	最終提案作品のプレゼンテーション・ボードと実習ごとに提出された全ての課題の内容をもって評価する。	80 %
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『インテリア設計士テキスト＜実技編＞』加藤力他・日本インテリア設計士協会・1,200 円
テキストは授業開始時に教室で販売。その他、必要に応じて実習課題ごとに資料配付を行う。
〔参考書・その他〕『家具設計テキスト＜家具のデザインと設計＞』加藤力・日本インテリア設計士協会 2,000 円。その他、実例を紹介するなど、理解しやすい実習を行う。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	講義中に指示する

作成年度：2013

授業科目コード	50－9	授業科目名	画像演習Ⅰ	担当教員名	渡壁（わたかべ） 京子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

画像の加工や合成，あるいはイラストの作成など，フォトレタッチソフト（Photoshop Elements）の利用方法について解説する．

授業の目的・到達目標

パソコンの性能が向上し，だれもが簡単にコンピュータを使って画像を処理・生成することができるようになり，画像や映像ををを作成する機会が増えている．そこで，Photoshop Elements を利用した，画像の加工やイラストの作成方法について習得する．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業内容・進め方についてのガイダンス	
2	画像の整理	写真の取り込みと整理	テキスト P18～
3	画像の補正①	色の修正	テキスト P58～
4	画像の補正②	画像の修整	テキスト P82～
5	画像の補正③	フィルター効果	テキスト P108～
6	画像の補正④	画像のレタッチ	テキスト P124～
7	画像の合成①	画像の合成	テキスト P150～
8	画像の合成②	部分的な画像の合成	テキスト P162～
9	復習	ここまでの演習内容の復習	
10	文字の入力	文字の入力と装飾方法	テキスト P178～
11	イラストの描画①	新しいイラストの作成	テキスト P202～
12	イラストの描画②	作成したイラストに効果をつける	テキスト P218～
13	年賀状の作成	写真を使った年賀状の作成	
14	最終課題作成①	最終課題作成のための画像の収集	
15	最終課題作成②	最終課題作成と印刷	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

演習科目であるので，遅刻・欠席をしないこと．
テキストを持参しない者，受講態度の悪い者は出席と認めない．
また，授業を妨害する者には退室を命じる．

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	演習科目であるため実施しない．	%
その他（出席状況等）	授業時の提出課題を中心に，授業態度・出席状況を加味して判断する．	100 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「速効！図解　Photoshop　Elements　10　Windows&Mac 対応」　マイナビ　1,449 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	50－10	授業科目名	画像演習Ⅱ	担当教員名	渡壁（わたかべ） 京子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

イラストの作成を中心に，グラフィックソフト（Illustrator）の利用方法について解説する．

授業の目的・到達目標

実際に作品を作っていくことで，Illustrator の実際的な使い方を体得する．簡単なイラストの作成から始め，ロゴの作成やトレースなどさまざまな活用方法を学ぶ．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	ガイダンスと基本操作	テキスト P10~
2	基本図形のイラスト	基本図形を使ったイラストの作成	テキスト P28~
3	基本図形の変形	基本図形の変形と組合せ	テキスト P38~
4	レイヤーの基本	レイヤー操作	テキスト P52~
5	線の描画	ペンツールの使い方	テキスト P68~
6	線幅の変更	線幅ツールの使い方	テキスト P78~
7	線の変更	ブラシツールの使い方	テキスト P90~
8	色の変更	スウォッチパネルとグラデーション	テキスト P106~
9	アピアランス	アピアランスパネルの使い方	テキスト P126~
10	不透明度	不透明度の設定と配色	テキスト P132~
11	遠近感を出す	遠近グリッドの使い方	テキスト P154~
12	3D 効果	押し出し・ベベル・回転体の使い方	テキスト P170~
13	チラシの作成	画像とテキストの配置	テキスト P196~
14	最終課題作成①	最終課題作成のための画像の収集	
15	最終課題作成②	最終課題作成と印刷	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

演習科目であるので，遅刻・欠席をしないこと．
テキストを持参しない者，受講態度の悪い者は出席と認めない．
また，授業を妨害する者には退室を命じる．

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	演習科目であるため実施しない．	%
その他（出席状況等）	授業時の提出課題を中心に，授業態度・出席状況を加味して判断する．	100 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「速習デザイン　Illustrator　CS5」　技術評論社　2,604 円
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	50－11	授業科目名	テーブルコーディネート演習	担当教員名	横井　智恵子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

テーブルコーディネートの演習を通して日本や諸外国の食文化について学習します。
食卓を囲む者が身につけておくべき基本的知識や国際的社会人として通用するマナーを学習します。
「良き家庭」創造のために居心地の良い空間演出の基礎を学びます。

授業の目的・到達目標

家庭の食卓の楽しさから基本的食教育のあり方を学び、演習によりカラーコディネートや構成などを学習し覚えることで、感性豊かな応用力のある総合的な知識を習得することを目的とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	概　論	授業内容の説明・プランニングの立て方	プロジェクター
2	モーニングテーブル	洋のセッティングの基本とテーブル花の基本	写真　本
3	朝の食卓	和のセッティングの基本とテーブル花の基本	写真　本
4	端午の節句	テーブルウエアの知識	カラースケール
5	七夕の節句	リネン・カトラリー・グラスの知識	写真　本　プリント
6	トロピカルサマー	キャンドル・キャンドルスタンドの知識	写真　本　プリント
7	ハロウィーン	演出方法①	写真　本　プリント
8	重陽の節句	フィギュアーの知識	写真　本　プリント
9	クリスマス	洋のテーブルマナーの常識	写真　本　プリント
10	人日の節句	和のテーブルマナーの常識	写真　本　プリント
11	聖バレンタイン	演出方法②	写真　本　プリント
12	色の知識	食空間での色彩心理	写真　本　プリント
13	上巳の節句	演出方法③	写真　本　プリント
14	イースター	演出方法④	写真　本　プリント
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括　（筆記）	
	(試験)	全体の理解度の確認と授業総括（ﾊﾟｰﾃｨｰ演出）	

履修上の注意・関連科目等

・欠席や遅刻をしない・携帯電話の使用禁止・ワークブックに講義中のメモを取り演出の写真を貼る
・学生としてのマナー違反は退出してもらいます

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑□無し	%
レポート	□有り ☑□無し	%
試　　験	15 回目に筆記試験実施 16 回目に実技試験（パーティー形式の演出）実施	40 40 %
その他（出席状況等）	ワークブックの仕上げ	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕山口泰子のテーブルライフ（N02￥1,700-）
ワークブック／ナプキンワーク（JFFT 協会出版¥1,500-）
〔参考書・その他〕
テーブルコーディネーターテキストブック　テーブルマナーのエッセンス　フードコーディネート論　他

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	51−1	授業科目名	キャリアデザイン論	担当教員名	赤穂　幸子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	必修科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

就業への興味・関心を深め、社会への視野を広げることをテーマに講義する。秋から始まる就職活動に備え、応募書類や面接の材料となる「自己分析」と、応募先を検討するための「業界・職種研究」を行う。また試験対策だけではなく、将来に活かせる就業観や基礎力を養うために、事例をあげて説明する。

授業の目的・到達目標

大学での学びや経験を職業選択に活かし、将来につなげる力を養うことを目的とする。就職活動の流れを把握し、やるべきことを理解すること、正しい情報収集ができることを目標とする。採用試験で行われるグループディスカッションや面接方式を実践し、意見を伝え、問題解決を図ることも課題である。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明	適宜、プリント配布
2	就職活動について①	就職活動の流れ	
3	就職活動について②	就職活動の現状と就職環境の変化	
4	働く環境を知る①	働くとは？どのような働き方があるのか？	
5	働く環境を知る②	生活と仕事から考えるお金の話	
6	働く環境を知る③	職場で必要なコミュニケーション	
7	採用試験について①	グループディスカッション体験	
8	採用試験について②	筆記試験の種類と内容	
9	情報収集	就職サイトの活用方法と就活情報の集め方	
10	自己分析①	大学生活から現在の自分を見つめる	
11	自己分析②	客観的に自分を知る	
12	業界・職種研究①	業界・職種について知る	
13	業界・職種研究②	身近な商品からの企業研究	
14	業界・職種研究③	企業についてグループワーク	
15	まとめ	自己 PR と夏休み行動計画作成	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①3 年生の就職希望者は必ず履修すること（後期「キャリアプランニングⅡ」も継続して履修すること）
②キャリアセンターを積極的に利用し、就職活動に備えること
③就業習慣を身につけるため、遅刻・私語は厳禁とし、あいさつや姿勢にも意識をもって取り組むこと
④毎回の小レポートに、学んだ事柄や自分の意見を書くこと。またグループディスカッションやグループワークへの積極的な参加姿勢、問題理解も評価の対象とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　毎回　小レポート提出（授業の振り返り） □無し	60 %
試　験	無し	%
その他（出席状況等）	出席状況、積極的な参加姿勢（態度・発言・グループディスカッション等）	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔参考書・その他〕必要に応じて、授業中に紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	51－3	授業科目名	ビジネス実務（秘書実務）	担当教員名	水原 道子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	3	前期	2	集中	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

社会人として働くときに求められる知識と技能の基本を中心に、実務能力が身につくよう、講義と実技を交えて行う。

授業の目的・到達目標

信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまな場面において適切な行動ができるようになることを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業の概要（板書・テスト・授業態度等）	
2	企業とビジネス活動	企業とビジネス活動の現状	
3	社会人のルール	社会人のあり方・協働の精神	
4	ﾋﾞｼﾞﾈｽ業務の心構え	ビジネスルールについて	ﾋﾞﾃﾞｵ「ﾋﾞｼﾞﾈｽの達人」
5	接遇の重要性	挨拶と第一印象の重要性	
6	ことばと話し方	敬語と話し方の実際	
7	電話応対	電話の慣用語句など	ﾋﾞｼﾞﾈｽ電話検定問題
8	来客応対	来客に対する行動と言葉遣い	ﾋﾞﾃﾞｵ「接遇の基本」
9	冠婚葬祭と行事	常識としてのマナー全般	秘書検定問題
10	ビジネス文書	業務上の文書知識と実習	秘書検定問題
11	ファイリング①	ファイリングの基本	ﾋﾞﾃﾞｵ「ﾌｧｲﾘﾝｸﾞの基本」
12	ファイリング②	ファイリングの自習	
13	訪問とセールス	会社訪問とセールストーク	
14	クレーム対応	クレーム処理の仕方	ﾋﾞﾃﾞｵ「クレーム対応」
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・テキストを第一回目から必ず持参すること
・配布プリントの欠席者対応は、前回分のみ配布する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	20　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	実施 詳細は初回ガイダンスで説明	70　%
その他（出席状況等）	出席及び受講態度を評価の対象とする	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
森山廣美他『ビジネスとオフィスワーク（第 6 刷)』樹村房　2010 年　1995 円（税込）
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　　階　　内線	[redacted]

作成年度：2012

授業科目コード	51－4	授業科目名	運営管理論(組織と人間)	担当教員名	合澤　浩之

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

製造業における生産管理、流通・サービス業における店舗販売管理の基本的な考え方を講義する。

授業の目的・到達目標

日々の生活を支える製造業と流通・サービス業の現場でどのように仕事が行われているのかを、講義と事例演習を通じて理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	講義の目的、進め方に関するガイダンス	参考資料プリントを配布
2	運営管理とは	企業における運営管理の役割	
3	生産管理	生産管理の基礎	
4		工場の仕組みと生産方式	
5		生産計画と生産管理	
6		品質管理	
7		製造業における情報システム(SCM)	
8	前半のまとめ	前半の理解度の確認	
9	店舗・販売管理	店舗と商業集積	
10		店舗施設	
11		商品の仕入れと販売	
12		物流・配送管理	
13		POS システムの概要	
14		POS システムを活用した店舗・販売管理	
15	まとめ	まとめと総合演習	
	(試験)	実施する。	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと（出席とは認めない）。
毎回配布されるプリントはきちんと保管すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　途中で１回実施する。実施日等は事前に説明する。 □無し	20　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	期末試験を実施する。内容・形式等については、授業の中で説明する。	40　%
その他（出席状況等）	出席状況及び授業態度、演習内容を重視する。	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕園川隆夫『オペレーションズ・マネジメントの基礎』朝倉書店

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	51－6	授業科目名	マーケティング・リサーチ	担当教員名	平岡　隆一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代生活にとってファッションは欠かせないものになっています。そのファッションビジネスを通じてマーケット（市場）とはどの様なシステムになっていて、どうすれば新しいマーケットを創造できるかを解明します。

授業の目的・到達目標

今日のあらゆる分野のビジネスは行き詰まりを生じている。それを解くのは“消費者のニーズ”をいかに適確に早くキャッチするかにかかっている。従来のマーケットアウト（消費者不在）の考え方からマーケットイン（消費者ニーズ）の発想に変えるかにかかっている。そして新しいマーケットニーズを適確にどうつかむかをファッションビジネスを通じて解明します。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義オリエンテーション	講義の進め方に関するガイダンス。	
2	ファッションとは	ファッション産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 10P～12P
3	ファッション商品①	“流行”の常識について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 12P～13P
4	ファッション商品②	「4 つの皮膚」論によるファッション産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 13P～14P
5	ファッション商品の切り口	商品グループのコンセプトについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 14P～15P
6	ファッション産業	現代生活とファッションについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 6P
7	アパレルの位置づけ	アパレルの重要性について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 6P～7P
8	ファッション産業の問題点	転換点にきた日本について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 7P～8P
9	アパレル産業	アパレル産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 16P～17P
10	アパレル生産企業	アパレルメーカーについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 18P～19P
11	ファッション流通入門	アパレル流通経路について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 20P～23P
12	ファッション小売企業	ファッション小売産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 23P～25P
13	ファッション産業の新しい動向①	垂直統業化について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 27P～30P
14	ファッション産業の新しい動向②	新業態の登場について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 30P～32P
15	まとめ		
	(レポート提出)		

履修上の注意・関連科目等

各回プリントの範囲を指定するので該当箇所を必ず予習すること。
寝るな、しゃべるな、遅刻するなを合言葉に授業を進めます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り □無し	70%
試　　験	無し	%
その他（出席状況等）	出席状況・授業態度	30%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
ファッションビジネス入門読本プリント

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

授業科目コード	51－7	授業科目名	ファッションビジネス論	担当教員名	平岡　隆一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代生活にとってファッションは欠かせないものになっています。
これから面白くなるファッションビジネスについて講義する。

授業の目的・到達目標

生活につながるすべてのものがファッション化し､バラエティ豊かな商品が溢れる時代を迎えている。
これが「ファッションを自己表現の手段、コミュニケーションの手段にする」人々が増えてきています。ファッションと現代生活は密接にそのファッションビジネスに活用することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的進め方	講義の内容、進め方などの説明	
2	ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽの解析	ファッションの内容にについて講義	テキストＰ34～Ｐ35
3	ﾌｧｯｼｮﾝ企業の実務入門	ファッションビジネスフローについて講義	テキストＰ35～Ｐ36
4	〃	ファッションビジネススタッフ、タイムテーブルについて講義	テキストＰ36～Ｐ39
5	ﾌｧｯｼｮﾝ企業の実務進行	コンセプトに決め方について講義	テキストＰ41～Ｐ45
6	ﾓﾉづくりの実践基礎講座	営業予算～展示会迄を講義	テキストＰ48～Ｐ52
7	ﾌｧｯｼｮﾝ小売業の実務入門	小売店の構成要因～小売店の一日の流れについて講義	テキストＰ56～Ｐ65
8	接客販売の基本	アプローチ～アフターサービス迄の流れについて講義	テキストＰ68～Ｐ82
9	ｾｰﾙｽの基本	接客販売もパーソナルスタイリストの時代へについて	テキストＰ83～Ｐ88
10	〃	ファッションアドバイザーのお客様とのコミュニケーションについて	テキストＰ91～Ｐ98
11	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲの基本	売れる為の商品プレゼンテーションと場作りにについて講義	テキストＰ99～Ｐ100
12	〃	ディスプレイの基礎技術について講義	テキストＰ101～Ｐ103
13	繊維の基礎知識	繊維の種類、糸のいろいろについて講義	テキストＰ104～Ｐ106
14	〃	織物の基本、編物の基本について講義	テキストＰ107～Ｐ124
15	まとめ		
	(レポート提出)		

履修上の注意・関連科目等

特になし

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	☑有り □無し	65%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	35%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2012

授業科目コード	51−8	授業科目名	フードビジネス論	担当教員名	西　宗光

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

近年、さまざまなフード産業において消費者に品質の不安が広がっているが、食を扱う側にとって、品質安全性とサービスの安心を提供しなければならない。
世界の食スタイルを学び、“もてなす”言葉のもと、消費者の心に響く、安心・美食・満足感とホスピタティを理解し、フードとサービス及び食を扱う基礎知識を楽しく講義する。

授業の目的・到達目標

食の最前線に関する知識と世界の食文化を総合的に学び、ホスピタリティの視点で
フードサービス産業に求められる基本知識と感性を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	学科・専攻・コース別履修ガイダンス	
2	フードビジネス概説	食物～消費、食と食中毒事故、接客の基本、	プリントマテリアル／PM
3	フードビジネスの基礎	サービス・挨拶・接客会話・ホスピタリティ	〃　〃
4	食品・食材の知識	概説・食材の特徴・食材の名詞／英語・仏語	テキスト、PM
5	西洋料理	フランス料理・歴史・食材・メニュー	〃　〃
6	西洋料理	イタリア料理・地方・食材・各国料理	〃　〃
7	テーブルマナーとサービス	マナーと食卓、プロトコール	〃　〃
8	中国料理	主な食材と乾貨、菜譜の読み方	〃　〃
9	日本料理	歴と旬、献立、和食の魅力と形態分類	〃　〃
10	ビバレッジサービス	飲料分類、酒類分類、ワイン分類、酒の嗜好	〃　〃
11	ワイン・カフェビジネス	ワインの知識、ワインサービス、カフェ	〃　〃
12	調理器具・設備	調理の基本、厨房システム分類	〃　〃
13	フードマネジメント	経営の基本、業態開発、空間の演出	〃　〃
14	食の企画	ゲストの視点でとらえるフードビジネス	〃　〃
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	〃　〃
	(試験)	学期末試験日	

履修上の注意・関連科目等

ホスピタリティの基本になる笑顔・アイコンタクト・立ち姿・美しく挨拶（礼）を実践し身につける。
毎回、テキストに沿ったのオリジナル・プリントマテリアル配布。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	10　%
レポート	■有り □無し	10　%
試　　験	実施、内容、形式については、授業の中で説明する。	60　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度（実技・発表）を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕①フードコーディネーター教本　　柴田書店　　価格 3150 円

〔参考書・その他〕オリジナル・プリントマテリアル

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	51－9	授業科目名	ホテル・レストラン学	担当教員名	片山 昌子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	3	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

1. 宿の時代から現代までの日本と西洋の宿泊産業の発展史と歩みを説明したうえで、日本資本、外国資本の企業がグローバル規模で変動している宿泊業の現状と最新動向を紹介し、それに対応できる実務の基礎知識を講義する。
2. 訪日外国人(インバウンド)の誘致、国内観光誘致政策により活性化と拡大化が見込まれている宿泊産業の業界研究を視野に入れて講義する。

授業の目的・到達目標

1. 宿泊産業の発展史をふまえたうえで宿泊業、ホテル業の業界研究を視野に入れて動向を考察する。
2. 宿泊業、ホテル業の現場で対応できる基礎知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	宿泊業の基礎知識（1）	宿泊業とは、ホテルとは	DVD, PowerPoint
2	宿泊業の基礎知識（2）	ホテルの経営形態と業態分類	PowerP、配布資料
3	宿泊業の基礎知識（3）	発展史と歩み ①	PowerP、配布資料
4	宿泊業の基礎知識（4）	発展史と歩み ②	PowerP、配布資料
5	ホテルのオペレーション（1）	宿泊部門	PowerP, DVD,資料
6	ホテルのオペレーション（2）	料飲部門	PowerP, DVD,資料
7	ホテルのオペレーション（3）	宴会部門	PowerP, DVD,資料
8	ホテルのオペレーション（4）	ウエディング部門	PowerP, DVD,資料
9	ホテルのオペレーション（5）	セールス&マーケティング部門、管理部門	PowerP、配布資料
10	ホテル・マネジメントの基本(1)	日系ホテルと外資系ホテルの違い	PowerP、配布資料
11	ホテル・マネジメントの基本(2)	レベニューマネジメント	PowerP、配布資料
12	ホテル・マネジメントの基本(3)	リスクマネジメント､ｸﾚｰﾑ､ｺﾝﾌﾟﾚｲﾝ対応	PowerP、配布資料
13	宿泊産業・ホテル業界の動向	業界研究、求められる人材	PowerP、配布資料
14	プロトコール&外国人客接遇	プロトコール(国際儀礼)の基本知識	PowerP, DVD,資料
15	まとめ		PowerP、配布資料

履修上の注意・関連科目等

社会人となった際に不可欠な基本的マナーを具備する観点から、次の受講ルールを順守して積極的な受講態度で学んでください。①携帯電話電源オフ　②水・お茶以外の飲食禁止　③私語の多い学生は退室させる場合もある　④授業開始 10 分以降の遅刻は正当な理由がある場合を除いて認めない

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　授業の終了時に毎回ミニテスト実施（ノート持ち込み許可） □無し	30 %
レポート	■有り　最終回に実施（課題は事前に通知する。未提出者は失格） □無し	30 %
試　験		%
その他（出席状況等）	授業への積極的な参加態度を重視する	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　毎回授業時に資料を配布する

〔参考書・その他〕　「新ホテル総論」(プラザ出版・日本ホテル教育センター)、「ホテル概論」(JHRS)等を推薦図書とする。　※授業時に資料配布する

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	

作成年度：2013

授業科目コード	51－12	授業科目名	キャリアサポート演習Ⅰ	担当教員名	國廣英司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

時事＆一般常識

授業の目的・到達目標

期間等に於いて起きた事象を理解してもらう(政治、経済)

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	日本経済	テキストに基づき問題形式で回答 内容について解説する	
2	世界経済		
3	政治		
4	〃		
5	〃		
6	財政・地方自治		
7	〃		
8	〃		
9	産業・技術		
10	ことわざ		
11	〃		
12	〃		
13	四字熟語		
14	〃		
15	〃		
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

テキストは必要である。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	実施	70 %
その他（出席状況等）	出席及び授業への積極性を評価対象とする。	30 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

時事＆一般常識

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
号館　階　内線	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	51－13	授業科目名	キャリアサポート演習Ⅱ	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	1	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

国家資格に昇格した保育士資格を得るための講座

授業の目的・到達目標

毎年 8 月(実技試験は 10 月)に実施される保育士試験のための教科(社会福祉、児童福祉、発達心理学、精神保健、小児保健、小児栄養、保育原理、教育原理、養護原理、保育実習)について学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	保育原理	過去問題と解説	テキストに準じる
2	〃	〃	〃
3	教育原理	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	発達心理	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	児童福祉	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	精神保健	〃	〃
10	小児保健	〃	〃
11	小児栄養	〃	〃
12	保育実習	〃	〃
13	社会福祉	〃	〃
14	児童福祉	〃	〃
15		全体の理解度の確認と授業総括	〃
	(試験)	行わない	

履修上の注意・関連科目等

保育士試験を受験しない者は、履修不可。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　毎回試験を課す。 □無し	30 %
レポート	□有り □無し	%
試　験	なし	%
その他（出席状況等）	**出席状況を重視する。**	70 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

別途指示する。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	51－14	授業科目名	プレ卒業研究	担当教員名	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻 専任教員

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目	必修科目	3	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活マネジメントコースの専任教員が、それぞれの専門の立場から 4 年次の卒業論文の作成に必要な基礎知識をローテーションで指導する。

授業の目的・到達目標

書き方の約束や執筆手順、文献・資料の集め方や整理の方法など、論文作成の基本を学び、筋道を立てて自分の考えた意見を述べる能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	卒業論文のテーマ設定(その 1)	4 種類の論文作成の方法を学ぶ	
3	論文の書き方の決まり(その 1)		
4	論文の書き方の決まり(その 1)		
5	卒業論文のテーマ設定(その 2)		
6	論文の書き方の決まり(その 2)		
7	論文の書き方の決まり(その 2)		
8	卒業論文のテーマ設定(その 3)		
9	論文の書き方の決まり(その 3)		
10	論文の書き方の決まり(その 3)		
11	卒業論文のテーマ設定(その 4)		
12	論文の書き方の決まり(その 4)		
13	論文の書き方の決まり(その 4)		
14	卒業論文発表会(聴講)	卒業論文の分野を決める	
15	卒業論文発表会(聴講)	卒業論文の分野を決める	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

①評価は、各教員が課すレポートと出席状況で行う。
②出席を重視するので、休まぬ覚悟で来ること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　提出期限までに各教員に提出した課題レポートを評価する。 □無し	50 %
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況・受講態度を評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	52－1	授業科目名	卒業研究Ⅰ	担当教員名	清水尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学の集大成として、各自が選択したテーマについて研究し、卒業論文の執筆を行う。

授業の目的・到達目標

自ら研究計画をたて、4 年次までに習得した知識や技能を活用して仮説の検証を行い、通年で卒業論文にまとめる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	卒業論文の書式	執筆の手順について説明	
3	研究テーマの選定	研究方法について説明	
4	研究テーマの選定	情報検索について説明	
5	研究テーマの選定	情報の絞り込みについて説明	
6	研究テーマの選定	研究計画について説明	
7	研究テーマの選定	研究事情に応じたテーマの設定指導	
8	研究活動の実施	文献の収集について指導	
9	研究活動の実施	情報の検索について指導	
10	研究活動の実施	情報の整理について指導	
11	研究活動の実施	進捗状況の確認と研究計画の指導	
12	研究活動の見直し	テーマの吟味について指導	
13	研究活動の見直し	文献の収集について指導	
14	研究活動の見直し	情報の検索について指導	
15	研究活動の見直し	全体の理解度の確認と授業総括	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

生活とデザイン分野の科目を履修していることが望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　提出期限までに提出した進捗状況報告を兼ねたレポートを評価する。 □無し	50 %
試　験		%
その他（出席状況等）	出席状況・受講態度を評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	52－1	授業科目名	卒業研究Ⅰ	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

卒業研究は、住居学についてこれまで習得した知識を基に、よりよい住生活の実現に関わる研究テーマを学生自らが設定し、一年をかけてその研究に取り組み論文にまとめるものである。卒業研究Ⅰでは主に文献学習（講読・発表・討論）を通して、住居の専門的視点と問題意識を深めテーマを探ってゆく

授業の目的・到達目標

住生活をとりまく問題に着目しその改善のための研究課題や仮説を設定して、それらを文献や調査等によって立証する手順を、研究論文にまとめる全過程を通して習得することを目的とする。卒業研究Ⅰでは、研究テーマを設定し研究活動の全体像を明確にさせることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方等の説明／卒業論文とは	随時、必要資料を配付
2	研究テーマの探索(1)	関心のある研究領域・テーマの討論	随時、必要資料を配付
3	研究テーマの探索(2)	（同上）〈文献講読発表・①〉	テキスト・資料
4	研究テーマの探索(3)	テーマの研究目的・方法の意見交換	配布資料
5	先行研究の紹介(1)	関連文献･先行研究紹介と研究方法の検証〈文献②〉	テキスト・資料
6	先行研究の紹介(2)	（同上）〈文献③〉	テキスト・資料
7	先行研究の紹介(3)	（同上）〈文献④〉	テキスト・資料
8	研究内容の決定(1)	研究テーマの設定と､立証のための方法論の確定	配布資料
9	研究内容の決定(2)	（同上）〈文献⑤〉	テキスト・資料
10	研究計画の作成	各自の研究計画を作成	配布資料
11	調査の企画(1)	調査対象や調査実施方法などの選定〈文献⑥〉	テキスト・資料
12	調査の企画(2)	調査フレームの検討及び調査票の設計	配布資料
13	調査の企画(3)	（同上）〈文献⑦〉	テキスト・資料
14	調査の実施準備	調査票の完成とプリ調査〈文献⑧〉	テキスト・資料
15	研究計画の実行	分析モデルの設定（仮説）と再検討	配布資料
	(試験)		

履修上の注意・関連科目等

卒業研究は大学での学びの集大成です。問題意識を持って住生活を見つめ、その解決への課題や手順を主体的に考え、物事を論理的に捉える力を身につけることが求められます。担当教員と連携して議論を深めながら、積極的に取り組んでいきましょう。なお、家庭科教育に関する研究テーマも可能です。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　文献学習のレジュメ、研究テーマのレポートの作成 □無し	50 %
試　験		%
その他（出席状況等）	卒論研究への意欲・態度及び内容を総合して評価する。	50 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

・「新・住居学［改訂版］」（渡辺光雄・高阪謙次編著、ミネルヴァ書房､）

〔参考書・その他〕

・授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	52－1	授業科目名	卒業研究Ⅰ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学での集大成としての卒業論文を作成するために、各人のテーマについて研究し、そのための研究目的や方法について学ぶ

授業の目的・到達目標

卒業論文のテーマを決定し、研究目的や方法について学ぶ

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	卒業研究について	
2	卒業論文について	「論文の書き方」	
3	卒業研究のテーマ	各人の関心あるテーマについて討議	
4	卒業研究のテーマ	各人の関心あるテーマについて討議	
5	卒業研究のテーマ	各人の関心あるテーマについて討議	
6	文献検索	各人のテーマについて検索	
7	文献検索	各人のテーマについて検索	
8	文献報告 1	先行研究について各人の発表	
9	文献報告 2	先行研究について各人の発表	
10	文献報告 3	先行研究について各人の発表	
11	フィールドワーク 1	インタビューの手法と質問項目の作成	
12	フィールドワーク 2	インタビューのアポイントメントと方法	
13	フィールドワーク 3	インタビューの実際	
14	各自のテーマの決定	各自のテーマについての執筆	
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席を重視する	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2011

授業科目コード	52－2	授業科目名	卒業研究Ⅱ	担当教員名	清水尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学の集大成として、各自が選択したテーマについて研究し、卒業論文の執筆を行う。

授業の目的・到達目標

自ら研究計画をたて、4 年次までに習得した知識や技能を活用して仮説の検証を行い、通年で卒業論文にまとめる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	研究活動の中間報告	進捗状況の報告による執筆指導	
3	卒業論文の執筆	論文の書き方（記述の順序）について説明	
4	卒業論文の執筆	論文の書き方（図表の活用）について説明	
5	卒業論文の執筆	論文の書き方（表記の規則）について説明	
6	卒業論文の執筆	序論の執筆指導	
7	卒業論文の執筆	本論の執筆指導	
8	卒業論文の執筆	結論の執筆指導	
9	卒業論文の執筆	引用文献の執筆指導	
10	卒業論文の執筆	卒業論文の清書を指導	
11	卒業論文の執筆	卒業論文の校正を指導	
12	卒業論文の執筆	卒業論文の清書を指導	
13	卒業論文の執筆	卒業論文の校正を指導	
14	卒業論文発表会準備	レジュメの作成を指導	
15	卒業論文発表会準備	レジュメの作成を指導	
	(試験)	実施しない	

履修上の注意・関連科目等

生活とデザイン分野の科目を履修していることが望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　提出期限までに提出された卒業論文の成果を評価する。 □無し	80 %
試　験		%
その他（出席状況等）	卒論発表の様子・出席状況・受講態度を評価する。	20 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	

作成年度：2013

授業科目コード	52－2	授業科目名	卒業研究Ⅱ	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

卒業研究は、住居学(含む家庭科教育学)についてこれまで習得した知識を基に、よりよい住生活の実現に関わる研究テーマを学生自らが設定し、一年をかけてその研究に取り組み論文にまとめるものである。卒業研究Ⅱでは各自の研究テーマについて調査・分析・考察をし、研究論文の執筆及び発表を行う。

授業の目的・到達目標

住生活をとりまく問題に着目しその改善のための研究課題や仮説を設定して、それらを文献や調査等によって立証する手順を、研究論文にまとめる全過程を通して習得することを目的とする。卒業研究Ⅱでは、研究テーマについての分析・考察を深め、卒業論文にまとめることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方等の説明	随時、必要資料を配付
2	研究テーマの確認	本調査実施の経過報告と研究計画の再検討	〃
3	集計作業(1)	調査票の点検とコーディング	〃
4	集計作業(2)	調査データの入力作業	〃
5	集計結果の分析(1)	データの一次分析・考察と要点の整理	〃
6	集計結果の分析(2)	（同上）	〃
7	集計結果の分析(3)	データの二次分析・考察と要点の整理	〃
8	集計結果の分析(4)	（同上）	〃
9	論文構成の検討	論文の章構成骨格の検討と主論点の確定	〃
10	考察結果の論述(1)	考察結果を整理して項・目レベルの要旨を執筆	〃
11	考察結果の論述(2)	（同上）	〃
12	論文の執筆(1)	論文の体系の確定と論文の草稿執筆	〃
13	論文の執筆(2)	（同上）	〃
14	論文の執筆(3)	論文の浄書作業　／発表の準備（PP・要旨・発表文）	〃
15	まとめ（研究発表）	卒業研究の発表のリハーサル（PP・要旨・発表文）	〃
	(試験)	卒業研究の内容を公表する（PP・要旨・発表文）	

履修上の注意・関連科目等

卒業研究は大学での学びの集大成です。問題意識を持って住生活を見つめ、その解決への課題や手順を主体的に考え、物事を論理的に捉える力を身につけることが求められます。担当教員と連携して議論を深めながら、積極的に取り組んでいきましょう。上記スケジュールは分析手法により異なります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　研究テーマのレポートの作成 □無し	20 %
試　　験		%
その他（出席状況等）	卒論研究への意欲・態度及び論文内容を総合して評価する。	80 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特にありません

〔参考書・その他〕授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス
[redacted]	[redacted]

作成年度：2013

授業科目コード	52−2	授業科目名	卒業研究Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学での集大成としての卒業論文を作成するために、各人のテーマについて研究し、そのための研究目的や方法について学ぶ

授業の目的・到達目標

卒業論文のテーマを決定し、研究目的や方法について学ぶ

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	研究テーマの実施		
2	研究テーマの実施		
3	研究テーマの実施		
4	研究テーマの実施		
5	研究テーマの実施		
6	研究テーマの実施		
7	研究テーマの実施		
8	研究テーマの実施		
9	研究テーマの実施		
10	研究テーマの実施		
11	論文の仕上げ		
12	論文の仕上げ		
13	論文の仕上げ		
14	論文の仕上げ		
15	卒業研究の成果報告		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席重視	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号	電子メールのアドレス

作成年度：2011